

宮崎医大整形外科

# 同門会誌

第 6 号

平成6年11月

宮崎医科大学整形外科学教室同門会



宮崎医科大学整形外科学教室開講20周年記念 於 平成26年5月21日  
宮崎サンプラザホテル エニックス

宮崎医科大学整形外科学教室  
開講20周年記念式典・祝賀会



平成6年5月21日(土)  
於：サンホテルフェニックス国際会議場



玉井元学長



式典のあいさつをされる田島教授



木村前教授



祝賀会会場入口にて 田島教授ご夫妻



河野同門会会長



式典・祝賀会受付



祝賀会風景



開講20周年記念特別講演会講師の Nackemson 教授夫妻



Nackemson 教授夫妻を囲んで H 6 . 10 . 27



平成 6 年度宮崎医科大学  
整形外科学教室同門会忘年会  
集合記念写真  
平成 6 年11月26日(出)  
於：魚よし



第37回 西日本整形外科親善野球大会  
 平成6年8月6日～7日  
 ～ 鳥取県米子市にて ～



～ 一軍 ～



～ 二軍 ～



15年選手の平川先生を囲んで



前夜祭 ～ 大山ロイヤルホテルにて ～



平成6年度整形外科医局旅行  
 平成6年9月23日～24日  
 日南 北郷温泉 山吹の里



Prof. 田島



～ 途中、鵜戸神宮にて ～



Dr. 帖佐 and 帖佐 Jr.



初参加の柏木 Jr. そっくり…



新入局員の村田です



万歳三唱の大家…



新入局員の山本です





宮崎医科大学整形外科新入医局員歓迎会 平成6年7月2日 於 ホテルプラザ宮崎

# 目 次

ご 挨拶	教授 田島 直也	1
ご 挨拶	会長 河野 雅行	2
随 想		
左見右見	木村 千仞	4
出口義宏先生を悼む	田島 直也	5
出口義宏先生を悼む	三浦 広典	6
中年の戒め	伊勢 紘平	7
せいゆうかい便り	矢野 希人	8
近況	弓削 達雄	10
君はスタンレーの魔女を見たか?	甲斐 佐	11
その先の日本へ	獅子目賢一郎	13
高所恐怖症	大江 幸政	15
今年の夏	平部 久彬	16
ウォーキング	八田 純雄	17
菊田整形外科 女子 ラグビー部	菊田 勇	18
ロンドン, EMI アビーロードスタジオを訪れて	大平 卓	19
1994年と2004年に、ふと思ったこと。	千代反田 修	21
医局長雑感—40歳を目前として	黒木 俊政	24
新規開業		
開業にあたって	三股 恒夫	25
施設紹介		
渡辺整形外科病院をよろしく	渡辺 雄	26
藤元病院	福田 健二	27
高千穂町立病院	鳥取部光司	28
上天草総合病院	植村 貞仁	29
百瀬病院	浪平 辰州	30



## 回 想

スイス留学を終えて	帖佐 悦男	31
Spine Across the sea in Hawaii に参加して	久保紳一郎	33
しあとの報告—宮崎県高校選抜バスケットボールチーム 米国遠征に参加して—	田辺 龍樹	34
GOTS fellow in Miyazaki	樋口 潤一	35
宮崎医大整形外科野球部の夏	黒木 浩史	38
医局員便り		
理想的な臨床医をめざして	長鶴 義隆	39
	黒田 宏	
	矢野 浩明	
結婚後の近況報告	末永 治	40
火の国便り	関本 朝久	41
日の沈む国より	渡部 正一	42
県立宮崎病院研修状況	後藤 啓輔	43
県立延岡病院研修状況	川添 浩史	44
新入医局員紹介		45
教室同門の研究業績		47
同門会員名簿		73
賛助会員名簿		85
編集後記		

## ご 挨拶

教授 田 島 直 也



宮崎医大整形外科同門会誌第6号の発刊にあたり、一言御挨拶申し上げます。

今年は宮崎医科大学開学20周年の年であり、また同時に開講した私たち整形外科教室も20周年を迎え、誠に記念すべき年でありました。教室の20周年行事も教室・同門各位の御協力ですべて無事終了し、あらためて関係各位にお礼を申し上げます。

さて、昭和28～29年頃発足した他大学の整形外科教室も今年は40周年を迎えるところが多く、また、昭和48年頃から始まった新設医大一我々宮崎医大は新設医大2期目の昭和49年開学であるが一約20年経過したことになります。

日本整形外科学会も会員数約17,000名と会員数も急増してきて、いよいよこれからが臨床面、研究面からも一層充実し、世界の整形外科の発展に寄与することが期待されます。

臨床面では、1つ1つの症例の積み重ね、1つの術式のきちんとした客観的成績の検討が必要なのは当然であります。

一方、研究面では originality、独創性があるものが要求されます。明治以来、日本には急速に欧米の文化が入ってきて、医学の面でも外国のもの追試、もしくはその modify が多く、これが我国の各方面の level up につながったことは事実であります。

しかしながら、1993年迄の科学部門のノーベル賞受賞者はアメリカ170人40%、ドイツ60人、日本5人でありアメリカが群を抜いて1位であり、日本とは余りにもかけはなれています。ノーベル賞が全てではありませんが、1つの尺度として考えるべきであります。

このようなアメリカの背景の1つに身分・上下の関係なく自由な討論、発想が行われ、次々と新しい研究を行っていくこと、また研究者は研究だけに没頭し研究以外の雑用をする必要がないことがあげられます。

日本とアメリカでは制度等に差があるのは当然ですが、ここで当教室も原点に戻り、今度新たな研究面の環境整備と組織づくりを行い、どんどん originality を出していきたいと切望している次第であります。

今後とも同門会諸兄の御協力御支援をお願い致します。

## ご 挨拶

会 長 河 野 雅 行



皆様お元気で御活躍のこととお喜び申しあげます。

一年過ぎるのは早いものです。ついこの間原稿をお願いしてやれやれと思っておりましたら、又原稿依頼がまいました。

短かったようでも振り返ってみますと公私共に様々なことがありました。

本年は開講20周年という節目の年であり幾つかの行事が執り行われました。先の祝賀会・秋の記念講演会と立派な行事が教室主催の元に実行され、来賓の方々からも祝辞をいただき盛会のもとに終了しました。Nackemson 教授夫妻の講演も大変有意義なものでした。担当の先生方ご苦勞様でした。

祝辞をそのまま解釈するのは甘いかも知れませんが、この20年で宮崎医大整形外科学教室は飛躍的な発展を遂げたことを諸先輩方より認めていただき、其の上この20年を土台にしてさらなる発展を期待されているという印象を受けました。期待が大きいだけプレッシャーも大きいことでしょうが、発想を変えればやりがいがあるとも言えます。難儀なこととは思いますが今まで以上に活躍していただきまして、諸先輩方の期待を裏切ることの無いようお願いいたします。

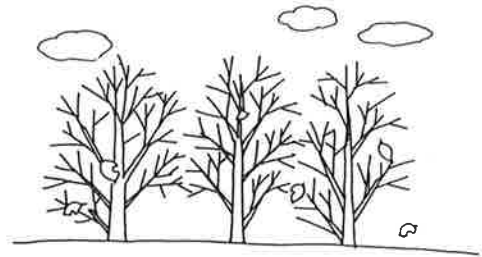
一方同門会といたしましては出口先生の御逝去という悲報はございましたが、皆様方の御善意により御遺族の方々も随分と励まされたようです。その他、同門会の主たる目的であります親睦行事も宴会・ゴルフと順調に消化し、もう一つの主たる目的であります教室後援につきましては教室主催の大きな学会もなく割合に平穩であったと考えます。昨年度は幾つかの学会を教室で主催され同門先生方にも多分の御無理をお願い致しましたが、ここ暫くは予定が無いようです。教室は現在のところ近い将来に向けての充電期間のようです。同門会と致しましても時期が参りますれば再度無理なお願いに上がらねばなりません。その時の為に今のうちから力を貯えておいていただきますようお願い致します。

私事になりまして恐縮ですが、私にとりまして最大の事件は父を見送った事でした。その際には皆様方より多大の暖かい励

ましのお言葉や、お手紙をいただきました。この場をお借りしましてお礼申し上げます。有難うございました。

いずれ迎えねばならない事ではありますが、身近におこりますと流石にいろいろと考えさせられるものが多かったようです。父の書き残した文書からその生きざまを偲ぶとともに、今の自分を比較してみますと多々反省させられることがあり、又今後の生き方を改めて教えられた気が致しております。日常の診療に追われ、社会の諸事に吞まれ、育児・教育・家庭の雑事に巻き込まれ、毎日何をして一日を過ごしているのか解らない自分を発見し愕然としております。言い古された言葉ではありますが、今後は一日一時を大切に生きたいと考えております。

今後の皆様の御健康と御活躍を祈りつつ御挨拶とさせていただきます。





とみこうみ  
「龍見右見」

木村千仞

子供時代からいくら練習しても上手くならないのが字であり絵であったから、ワープロやコンピュータグラフィックの出現は夢の様なものである。ところが、ワープロを買って練習を始めたが途中で止まって先へ進まず、おまけにわが名前が出ないし漢字に詰まると、女の子に打ち出して貰うことになる。本文のタイトルは、はじめから諦めてはいるが昔の良い言葉・文字が制限されると語彙がへって心配だし、街中での若者の会話のように意味不明の音声も気になってくる。

龍見右見とは、あっちを見たりこっちを見たりということで、探し物、買物、安全確認、進路決定、政治判断など人間社会生活を営む上で、また知識を広める上で不可欠である。さて以前、欧州を巡った折、オランダ、スイス、西ドイツの一部の人家では窓辺に綺麗な小さい花が植えてあり、浪漫的というか少女的というか心安らぐ良い趣味だと思っていたが、実はこの花の香が小さな虫の侵入を防いでいることを知り、経験的なその智慧の広さに感服した次第である。残念乍ら花の名前は失念した。そういえば秋の最中わが国では、赤い彼岸花（曼珠沙華）が人家のまわり、墓地、畦道などで満開である。花卉の形が朝方の女の子の

頭髮の乱れに似ていたので、彼岸花が動いてるなどとはやし立てた思い出も遠い昔のことになった。この花の鱗茎は有毒なので、人家・田畑・土葬墓地をモグラやネズミの侵入から防いでいたとは、先祖の知恵に敬服する次第である。そういえば子供の頃田舎では正月半ばに「ドンド焼き」や「モグラ打ち」を庭先で行事としてやった覚えがある。平和な世の中が最高と思う。

最近の世界のあちこちで民族戦争が頻発し、社会情勢も厳しく急激に変化しつゝあり、全く先行きのわからぬ状況である。先般政府が決めたルワンダ難民救済問題でも、たまたま情勢悪化で米・佛その他連合軍が撤退し、日本へも派遣を見合せよと忠告しているのに、政府は一端決めたことだから面子を保つ為か自衛隊派遣を強行しているが、怪我人や死者が出たらどうするつもりか？ 先日のTV討論で社会党の1人を除き自民その他の議員はこんなニュースは全く知らないという。政治の要人たる者の不認識たるや失言問題以上の重大事である。政治家こそ新聞・TVは勿論、龍見右見の幅広い見識を持った優秀な秘書をやとって、われわれの税金を有効に活用して貰いたいものである。

## 出口義宏先生を悼む

田 島 直 也

同門の出口義宏先生は 去る平成6年6月12日、享年39才で急逝されました。心より哀悼の意を表します。

出口先生は、長崎県の島原の御出身で、宮崎医科大学の第2期生として昭和56年卒業後、整形外科学教室に入局され、私達と同じ医局生活を送られました。昭和57年6月から昭和58年3月まで産業医科大学にリハビリテーション医学の研修に行かれ、その後本学に帰られ、医員・助手をされました。教室では、ダグラスバッグを使用してのガス分析の仕事等を手がけられましたが、その後リハビリテーションの専門病院である水俣市立湯之児病院に移られ、更に1～2の病院で勤務された後、今年からは筑波のリハビリテーションの病院の責任者として勤務予定と聞いていました。

教室在任中は、仕事はまじめで物事に対する真

摯な態度、熱意には多くのコメディカルからも大きな信頼が寄せられていました。水俣市立湯之児病院に移られてからは一層研究熱心になられ、学会でも今までよりずっと積極的に活躍されていました。

今年2月に教室に寄られた時もアメリカの話や、筑波のPT、OTを全国から集めている話とかをととても楽しそうに話され、その時はこんなことになろうとは思いませんでした。

彼には奥様と4人のお子様がおられ、残された御家族のことを思いますと言葉もありません。

出口先生の後半は余りにも性急で休むゆとりのない日々ではなかったかと思えます。

御冥福を心からお祈り致します。

(合掌)



## 出口義宏先生を悼む

三浦 広典

出口先生と私は昭和56年に入局以来、公私にわたり親しくさせて頂いていただけに、先生の突然の訃報は驚愕の一語に尽きました。

先生を一言であらわすと、リハビリに関する深い理解と知識をもった専門医でありました。産業医大、湯ノ児病院で研鑽を積み、大学に戻ってからもリハの中核として、診療、研究、スタッフの教育と毎日を精力的に過ごしておられました。特にその方面に疎かった私は、同級生としての立場を最大限に利用させてもらいました。先生が湯ノ児病院におられる時は、脊損の患者さんをかなり引き受けてもらいましたし、大学に戻られてからは私の患者さんのリハや装具の相談にのってもらったことはしばしばでした。

研究面では、あるとき当時の木村教授から、酸素消費量測定実験を二人でやれということで、リハビリ室の一画に器材を持ち込み、夜遅くまで被検者の学生相手に悪戦苦闘したこともありました。もっとも私の方はストップウォッチ専門で、実験

の計画立案、実行、考察とすべて先生任せで、本当に楽をさせて頂きました。

先生は釣りも大好きで、プライベートでも清武川河口や海での提防釣りに行かれたようです。私も先生と一緒に何度か釣行したことがあります。戸田先生の持ち舟「戸田丸」に乗せてもらったの日南で五目釣りや、黒木俊政先生らと天草で鯛釣りをしたりと楽しい思い出があります。天草釣行のときには出口先生〇〇〇事件というのがありました。でもここで書いてしまうと、天国にいる先生から、あの低い、ボソボソとした声で、「恩を仇で返しちやいかんトサ」と叱られそうなので割愛します。あのときの先生のおこったような照れ笑いが思い出されます。

これからも一緒に釣行したり、リハ最先端の話をうかがったりと楽しみにしていただけに、余りにも早すぎた急逝は残念でなりません。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

## 中年の戒め

伊勢 紘平

昨年この時期に桑原先生から、同門会誌に掲載する為の原稿依頼があったと思ったら、また原稿依頼の手紙が届いた。文面に寄稿内容は何でも構いませんとの事。何を書こうかなと思う内に、依頼のあった事をすっかり忘れてしまっていて、机の引出しの整理をしていて、依頼の文書を見つけて出し、あわてて書いている。そこで、現在自分が真只中に居る中年について書いてみる。家族や他人様から立派な中年といわれはじめたのは40才を過ぎた頃からである。当時は、その感覚は全くなかったが、45才を過ぎて自覚した。その自覚したきっかけは、記銘力の低下である。以前は人様の顔と名前が瞬時に頭の中へ浮んでいたが、この人様の顔と名前が一致しない。顔はきちんとわかっているのに名前がなかなか出にくくなって来た。そして話をするうちに、「あーこの人は〇〇さんだった」と憶い出すのだからやっかいな事である。更に家庭内においては遠く離れている娘に「オーイそのあれを持って来て呉れ」といっては、「そのあれではわかりませーん！」といわれる事がしばしばである。(本当に我ながらあきれている。) この記銘力の低下をきっかけとして、体力の低下も著しい。まず視力の低下がはじまり、眼鏡は近視の度合を弱くしたものを作るなど、物いりとなり、少し歩けば下腿三頭筋は痙攣を起し、ちょっとした水溜りをとびこえる事に失敗したりで、これが学生時代に軟式テニスをしていた身体

かと情けなくなっている。この身体的体力の低下と共に精神的な体力の低下を感じはじめた。まず根気が続かない。(そのくせ遊び事は延々と何時間もしているが…)そして次第に頑固となり人の言う事に余り耳をかさなくなって来たような気持ちになっている。いわゆる頑迷固陋の域に入っているのかと気が気でない。このような現象をみて家人から、「こうしたら」「ああしたら」と有難い忠告を聞く破目になってしまった。それらを総合すると、1. 身体を動かす事。2. 本を読む事に要約されそうである。しかし乍らこのたった2つの事でさえ、生来の怠け者のゆえに守れないのが現実で、土曜日曜ともなると朝から晩まで、テレビの前でスポーツを観て過し、娘たちからは「お父さん!! 身体と壁がひとつになってる。」といわれている。本を読むのは、まあまあやっているのであるが、その本たるヤトム・克蘭シーあるいは、クーンツ著なる、冒険スパイ小説であり、(これは、でてくる人名がアメリカ、イギリス、ロシア etc であるから記銘力にとってはいいかと思っただのであるが) 途中まで読んでほっとくと、次に読む時に「あれこれは何をしている人だったかな」となるからとんでもない。何はともあれ、もう少し頑張りたいと思っているので、酒をひかえて、身体を動かして、青春にかえて人生論でもよもうかなー……………。

## せいゆうかい便り

矢野 希人

“せいゆうかい”とは、昭和52年11月宮崎医大付属病院の開院から医大生1回生が卒業するまでの約3年間に2階東病棟に勤務した医師および看護婦の集まりのことです。会長・会則もなく、ただ世話役のみを決めて、2年毎中秋の名月のころ集うことになっています。

今回は10月15日宮交エアラインホテル内の“龍王”にて開催しました。会員44名（うち3名消息不明）中21名が参加。定刻19時にはほぼ全員がにこやかな顔でそろいました。仕事と雑用に忙殺されて月日の経つのも忘れ、まだまだ若い者の気持ちでいる私達もふと振り返ってみるとすでに15年になっていました。かつては白衣をまとうて2階東病棟をかつ歩し、夏には海に、秋には山に繰り出した面々も、今や責任ある地位について活躍中だったり育児に専念していたりと様々な人生を送っています。参加者が3つの円卓についたところでまず田島教授に2階東病棟の現状についてお話しをいただき、いよいよ開宴です。熊本からお越しの木村前教授の発声でビールで乾杯し、中華料理に舌鼓を打ちつつしばし歓談。そして、参加者のスピーチが始まります。2階東病棟時代の思い出話、家族の事、仕事の話など、皆さんよくしゃべりました。宮医大病院で看護部の要として頑張っている中城・中武（旧姓川並）・渡辺（旧姓浜

砂）・水永さん。川内市医師会立病院総婦長の要職にある奥前婦長。育児も一段落して開業医に勤め始めたばかりで張り切っている田原（旧姓長久保）さん。宮崎市役所の予防接種室にパート勤務の湯浅（旧姓田宮）さん。宮崎市郡医師会看護学校の専任教員の谷口（旧姓黒木）さん。日向の九州電力の保健室に勤務の尾前（旧姓縫）さん。日向の精神病院勤務で独身貴族の村上さん。清武で寿司屋のお上におさまっている佐藤（旧姓富永）さん。国分で家業の建設業を手伝っている松下（旧姓一色）さん。そして岡田先生と二人三脚で整形外科医院を開業している旧姓中村さん、育児に専念しておりご主人の三股先生との晩酌が楽しみな旧姓矢野さん。どの顔も光り輝き、幸せに満ちた生活を送っている様子がはっきりみとれました。うれしいことに参加者全員がこの会を心待ちにしていたとのことで幹事に対してねぎらいの言葉をたくさんちょうだい致しました。名残はつきないものですが、時計の針は無情にも21時半を過ぎていました。2年後の再会を約して一次会は閉会しました。

今回参加できなかった方については、返信用はがきの記載事項を紹介させていただきました。次回には是非とも参加されますことをお願いいたします。





## 近 況

弓 削 達 雄

小生はあと一年と数ヵ月で満60才を迎えることになりましたが、10年前満50才を迎える時に日々さびしさを覚えていたのとは違い、今回は何かささっとしているような平然とした気持で迎えらるような気がします。これは恐らく自分なりに人生の義務を果たしてきたと云う安堵感が心の底にあるからだと思っています。とは云ってもまだ四人の娘の結婚と云う最後の難関が残っています。最近はこのことが頭から離れません。人生は学業成就、結婚、そして事業の成功と思っていましたらあと1つ子供達の結婚という最後の難事業が残っていたわけです。話は変わりますが最近の私は趣味に没頭しています。魚釣り、囲碁、ゴルフ、それぞれの趣味を平等に楽しんでいます。

魚釣りは週一回愛船オルベ号を操って鶴戸沖あたり迄アジ・タイ・イサキ等を釣りに行きます。何時も一人です。一人での船釣りは危険だからと友人や家族に注意されますが一人遊びは気楽です。出航時間、帰港時間は気まゝです。しかし、外洋で海に落ちたら最後だと思っています。いくら泳ぎが出来ると云っても船を操って助けてくれる人がいない以上海流や波浪で船につかまるのは困難

だと思われるからです。それでどんな場合でも海に落ちないように船の廻りに鉄製の手摺のような柵をとりつけました。現在は内海に係留しています。釣りに行きたい人は申し出て下さい。但し、船酔いしない人に限ります。出航後は船酔いしても直ちには帰港しません。次の趣味は囲碁です。今年の4月“ゴ、ネット”と云う全国組織の通信囲碁クラブに入りました。これはテレビゲームと似たようなもので、日本全国の囲碁愛好家とテレビ画面を通して碁を打つことが出来ます。昨日は北海道の人と打つことが出来ました。

次の趣味はゴルフです。この1年イップス病?で悩んでいます。テークバックからトップに入る時、体のバランスがくずれ、十分なインパクトが迎えられないわけです。原因を色々と検討しましたが、結論として気持の問題と、左足の固定の悪さからくるものだと云うことが解ってきました。ほんの一週間前から少し治ってきました。希望が持てるようになってきました。皆さん又一緒にプレーしましょう。

以上、近況でした。



## 君はスタンレーの魔女を見たか？

甲斐 佐

定刻の午前九時に日航ジャンボ機はシドニーを離陸、我々夫婦はお定まりの豪洲の旅を終えて帰路についた。

日中のフライトは疲労は少ないものの、退屈を持って余す。三分の一は飛んだかというところに聞き覚えのある地名がアナウンスされた。間もなくポート・モレスビー上空だという。頭の中で何かが鳴り響いた。ゼロ戦、ラバウル航空隊、ラエ、坂井三郎、松本零士、オーエン・スタンレー山脈、ジャングルの魔女という具合に、連想ゲームみたいな一連の言葉が浮かんでくる。これでは、ちょっと覗かずにはいられない。

あいにくと窓際の席ではなかったので、機体後方に移動すると、ちょうど喫煙用に指定されたシートが空いていた。鼻を窓にこすりつけるようにして下界を眺める。

見えた。海岸線に平行に延びるかなり大きな滑走路と、それを取り巻く椰子の林（そう見えただけ）は戦記物に出てくる空中写真にそっくりである。かって、この空域で行なわれた幾多の空中戦の舞台が、当時と変わらずに残っているように思えた。しかし、飛行場なんて真上から見ればどれも同じような形をしているから、本当はまったく変わっているのかもしれない。昔はあの椰子林の中に数多くの掩壕があって、戦闘機がひっそりと隠れていたのだが、いや、今でも壕だけは残っているかもしれない。我が宮崎空港周辺にさえも、幾つかは残っているではないか。

今やポート・モレスビーは独立国家パプア・ニ

ューギニアの首都となっているのだが、滑走路の西にある町並みは、首都とは思えない程度の規模である。サンゴ海に面した港には小さな防波堤が一つ見えるが、大型船舶が横付けするような規模ではなさそうだ。内陸に向かう道路があるのか無いのか、よく分からない。町の西に流れる川は、指を広げたいみたいに枝分かれして、湿地帯となって海に注いでいる。そこには堤防とてなく橋も架かっていない。ジャングルと海の合間に孤立して、飛行機が唯一の外界との交通手段のように思える町であった。

川が蛇行しているうちは地面が平らなのが明らかだが、日本のように可耕地と林業しか不可能な山地とが、はっきりした色分けされているわけでもない。飛行高度は一万メートル以上だから、すべてがのっぺりとして、ジャングルは小さな緑の豆を敷き詰めたように見える。だから、どこから山岳地帯かが分からずに困ってしまった。

よく見ると、白い線が緑の絨毯の隙間をくねくねと縫っている。川が白く見えるということは急流が続いている証拠だし、遙か西の方の山並みは海岸平地から急角度に立ち上がっているから、そこから類推して大ざっぱな立体像を構築してみる。

ニューギニアはグリーンランドに次ぐ世界第二の島、その恐竜みtainな形の島の尾骨に当たる隆起をオーエン・スタンレー山脈という。尻尾の幅は約150キロ、延岡—福岡間、あるいは宮崎—大分間の直線距離に等しく、そこに4000メートル級



の山がそびえている図を想像していただきたい。ただ、南緯10度の熱帯雨林のこと、山頂まで木に覆われているために、それほど高いようには見えないだけである。

開戦の翌年、ラエ、ブナを前線基地とした我がラバウル航空隊と、サンゴ海の玄関口にあたるポート・モレスビーを守る連合軍とが、この山脈を挟んで対峙して、毎日のように空襲、空戦が行われた。パイロットの苦労は戦闘だけではない。相手の土俵で勝負を挑めば、いずれも、帰りにこの4000メートルを越えねばならなかったからだ。

傷ついた愛機をなだめすかしながら、山脈を越えようとして、ジャングルに消えた若者の運命を考えるうちに肌が寒くなってきた。

松本零士の劇画「スタンレーの魔女」は主題をこの一点に絞った傑作だと思う。

損傷した爆撃機を操って、魔女がひそむというこの山脈を越えるには、機体重量を極限まで減らすしかない。余分なものは全て投げ捨てて、操縦士は必死になって高度を稼ぐ。あわや山腹に激突というときに、機体がすっと浮き上がって、山頂の木を掠めるようにして飛び越えることが出来た。「おい、やったぞ」と後方を振り向いたら誰も居ない。機体を少しでも軽くしようとして、残りの搭乗員すべてが飛び降りたあとだった。茫然とする操縦士の顔。(わが軍には落下傘を携行しないのを誇りにする傾向があったという)

考え込んでいるうちに分水嶺を過ぎたようだ。谷川の流れる向きが変わった。すぐに「大空のサムライ」の坂井三郎が駐屯していたラエの滑走路が見えるはずだと、立て続けにタバコを吸いながら粘ってみたが、低い雲が出てきて地上を覆い隠してしまった。残念。私がいまにも熱心に外を見ていたので、隣に座った若い男が声を掛けてきた。

「あなたは戦争中、このあたりに来たことがあるのですか？」と問う。

「御冗談を。私はそんな年ではありませんよ。戦記を読んで知っているだけです」

それでも、ここで繰り広げられた激戦の様を「坂井三郎」から引用して、一席ぶってやろうかと思ってみたが、私が口を開く前にその若者が言った。

「ミッドウェー海戦はこの近くであったのではありませんか？」

「あれはハワイの近くですけど」

こんな方向音痴に向かって、どうやって解説したものかと考えているうちに、相手の方が興味を失って去っていった。

ところで、リーダーズ・ダイジェスト社の1966年版「最新世界大地図」にはちゃんと載っているラエとブナが、なぜか同じサイズの講談社の1992年版「世界全地図」では消えている。まさかと思うが、ジャングルに呑み込まれたのだろうか？

## その先の日本へ

獅子目 賢一郎

高校総体ボクシング競技をみるために、日本のあまり大きくない町を訪れる機会が最近多くなった。エキゾチック・ジャパンといわれる様に、その土地特有の文化と歴史があり、外国を旅している時とはまた違った感動に接する事がある。

平成3年は県の出張旅費で宮崎総体の下見のために、山口守先生と静岡県沼津市の古びた旅館にとまった。沼津は15年ぶりであり、沼津市の隣の町にある国立東静岡病院には、名市大の同級生が整形外科部長をしており、数年ぶりに会って酒を飲むことになった。ボクシング医事運営で地元医師会と勤務医の間でトラブルがあったことをきいた。翌日は会場となった沼津学園の体育館を視察したが、冷房もなく暑かったが、地元の高校生が大会運営に協力している姿はさすががしかった。視察後、昔名古屋より車で家族ときたことのある三津公園にでかけた。静岡なまりのおばあちゃんたちの中に、山口先生と2人上着をきてバスにのっていると、妙にまわりからういた感じであった。そして、沼津港の近くの、きたないけど安くておいしい食堂で食べたとりたての海の幸は格別であった。この時、まさか平成4年の宮崎総体ボクシング競技の医事委員長をやることになるとは夢にも考えておらず、初めての高校総体を enjoy した。この年日章学園の図師君（現日大）がモスキート級で優勝し、平成6年10月の広島アジア大会の日本代表となった中園君（現日大）はライトフライ級で準優勝であった。

平成5年は、ボクシング競技は栃木県日光市で

開かれたが、その年は日本大学ボクシング部出身で足利市で食品会社を経営している知人がぜひ足利に來いとので、東武足利駅の近くのホテルにとまって日光へ行くことになった。この年は冷夏で、私も平成4年暮より体調をこわし奥さんが同伴することになった。日光のボクシング会場は冷房もいらない位すずしく、選手たちは寒いといていた。興梠君（現近大）がモスキート級で準優勝し、現キャプテンの田中君（東農大進学予定）は3位であった。日光は観光地であるが、東照宮の上まで自分の足で登れたこと、趣のある日光金谷ホテルでコーヒーを飲めたこと、日光名物「ゆば料理」を宇都宮の回転寿しの会長さんにおごってもらったことなど、自分の健康が少しいい方向に向っているのを確認しながらの旅であった。また足利市では足利学校跡、雨のふる中を美術館と回った。ねむった様な足利の町にはふにあいのフランス料理店にもいったが、この時だけはカロリーオーバーを奥さんに許してもらうことにした。作新学院ボクシング部出身のそば屋さん、ローカル色豊かな東武足利駅近くのスナック、すべてすずしくていい夏の思い出となった。

平成6年は富山県高岡市でボクシング競技が開催され、去年味をしめた奥さんが今年も同伴する事になった。去年とはうってかわって猛暑であったが、ボクシング会場はテクノドームで非常に近代的な施設であった。今年から参加した朝鮮高等学校の選手の取材風景に数回であった。高岡市は日本3大大仏の1つがあり、銅の町としても有名

である。七夕まつりの最中であつた商店街は決して活気があるとはいえないが、逆に何かなつかしい様な風情があつた。大伴家持の万葉の里にもいってみたが、あまりの暑さのため、古代に夢をはせめぐらせる気にはなれなかつた。また高岡市はバドミントン競技の強い土地柄で、バドミンツンのスポーツ障害を報告している高岡市民病院整形外科の山田先生とは、ボクシング医事のことでFAXで連絡しあい、高校総体を通じた友人となつた。ホテルは金沢にとつたため、15年ぶりの金沢では、香林坊のちよつとはずれの百万石料理を賞味することができた。平成6年の暑い夏も味わい

のある旅であつた。

地域の中核都市より少し先の日本の町はどこも温かく、それなりの文化と歴史をもっている。少しそういう事がわかる様になつたのは、年のせいかな、健康を害したせいかわからない。しかし全国大会に出場してくる選手たちは、こういうそれぞれの町で練習をして、その様な文化をしらずしらずにせおつて出場してくると思うと楽しいものである。

今年のアジア大会も広島市ではなく、その先の尾道にとまることにした。きっと今度もその先の日本はいい所に違いない。

## 高所恐怖症

大江 幸 政

久しぶりに休みがとれたので家族をつれて東京へ遊びに行ってきた。ひと昔前にはお上りさんは東京タワーに昇るのが一般的だったけれども、我われは田舎者と思われたくないとの一心から一路西新宿をめざした。

目的地は新都庁舎である。地上45階建てのモダンな造りで、いわゆる「バブルの塔」と呼ばれている。都民が血と汗で納めた税金を湯水の如く使ったと一部に批判はあったが、外観も内装もさすがに豪華だった。以前のみすぼらしい都庁舎に比べれば月とスッポンほども違うし、中で働く人びとの快適さを考えれば新しいほうがいいに決まっている。東京都民のために一所懸命仕事に精を出してもらえればと願うばかりである。(などと、都民税も納めていない他県人ほど勝手なことを言うようだ)

塔は北と南に二つに分かれ、どちらにも展望室がある。我がお上りさん一家は南の高速エレベーターに乗り一分ほどで地上202メートルに着いた。フロア全部が展望室になっていて、中央には喫茶コーナーや売店がある。四方の眺めはすばらしく、霞が関ビルや神宮外苑などが遠望された。

妻や子供たちはさっそく窓際で「スゴイ」とはしゃいでいたが、ほくは余裕を見せるかのように中央の喫茶コーナーに腰かけた。女子供のように軽薄にはね回るわけにはいかない。いかにも落ち着いた風情でイスにどっかと座り動こうとしな

い。・・・と他人様からは思われそうだが、なんとなく変だ。

実は動こうとしないのではなく、動くことができないといったほうが正しい。そう、ほくは高所恐怖症なのだ。飛行機などは怖くないのに、高いビルや断崖絶壁に昇ると足がすくんでしまう。窓から下を見ていると、ビルごと前方へ倒れていくような恐怖感が沸き上がってくる。

それでも、せっかく新名所に昇ったのだからもったいないと勇気を出して窓際に近寄ってみた。次第に歩みが遅くなる。窓から1～2メートル離れた所から覗き込むように首を伸ばした。はるか下の道路におもちゃのような車とアリのような人間が見える。そのとたん、吸い込まれるような感覚をおぼえ、お尻のあたりがジーンと痺れてきた。

へなへたと座り込みそうになるのをグッとこらえ、再びイスのほうへ引き返した。なごり惜しそうに景色を見ている子供たちを時間がないからとせかせて、そそくさとエレベーターに乗り込んだ。東京の名所というと、東京タワーやこの新都庁舎、サンシャインビルなど高層建築物が主で、ほくのような高所恐怖症の人間にとってはありがたくもなんともなかった。

宮崎にもシーガイアに高層ホテルができたが、あの最上階で学会やパーティーなど開かれないように切に願っているこの頃である。

## 今年の夏

平 部 久 彬

今年の夏は非常に暑いものでしたが、私の処はさらに暑いものでした。と言いますのは、空調設備の故障があり、夜間窓を開けて寝ていても、午前一時か二時頃になると、何かムツとして目覚めるのです。コンクリート製の建物特有の熱気のせいもあったのでしょうか。その上、私が昼休みに使用する部屋も、事情により冷房が使えず、何か一日中ボーッとした頭のままで過ごしていました。普通であれば、ゴルフに行っても、ホールアウト後直ちに帰宅をするものですが、自宅の状態を考えると億劫で、途中で涼を得て帰っていました。

こんな風に、今年は厳しい暑さをつくづく経験させられました。開業して10年が過ぎた頃から、いろいろな所が故障し始め、この夏は続けて2度も空調設備のトラブルが生じました。他の所もこれからいろいろと修理が必要になるのかと思うと頭が痛くなります。

このような夏ではありましたが、非常に楽しいことがありました。小一の末娘が、常日頃から、何か生き物を飼ってほしいと言っていたのですが、それが偶然にも実現することとなったからです。住吉の河野先生から招待状を頂き、先生の所の夏祭りを家内と末娘三人で見物させていただいたの

ですが、たくさんの夜店の中に金魚すくいがあり、娘がそれに挑戦したわけです。要領も分からず、すぐに紙が破けてしまい、アレツという顔をしている娘に同情されたのか、店の人が、小さくてかわいい金魚をおまけにくださったのです。娘は嬉しそうでしたが、私達は水槽も何もないので、どうしようかと相談して他の人に譲ることに決め、そのことを娘に話すと、目に涙を浮かべ、下唇を前に突き出し、今にも泣き出さんばかりの表情をします。それに負けて、結局家で飼うこととなり、帰路金魚店に寄り、水槽など一式を購入しました。現在、ピピちゃん、ミミちゃん、リリくんとなづけられた金魚は一週目頃発病しましたが、それを克服して、娘たちの世話の下に元気に泳ぎ回っています。河野先生娘に素晴らしいプレゼントをありがとうございました。

ところで、医院としましては、8月より超音波骨密度測定装置を導入して少しずつ使用しています。少しでも地域医療に役立てばと思っています。

こんな具合に、今年の夏は思い出深いものでした。最後に、田島先生の御健勝と宮医大整形外科教室の益々の御発展を祈念しまして、稿を終わらせていただきます。



## ウォーキング

八田 純雄

最近ウォーキングに凝っている。というのは私自身の腰痛の治療に役立っているように感じるからである。私の腰痛は朝方起床時に痛むタイプの腰痛なのであるが、病院へ行き仕事をしていると段々と良くなっていくようである。従って休日などで、何もすることなく食べてゴロ寝でテレビなどを見ているだけの生活の時は悲惨である。観面腰痛と食欲減退が待っているという次第である。病院で患者さんの治療をしながら自分の腰痛の話をする。「どこか良い整形外科はないですかネ」と笑われるが、あたり前である。

因に万歩計で一体自分が1日にどれくらい歩いているか計ってみることにした。病院と自宅の往復が約2,000歩、病院での8時間労働で約1,000歩、合計3,000歩くらいであった。それでも腰痛の改善には役立っているようである。

医局の若い先生方は早朝野球をされているようだし、又広い大学病院なので、私よりもっと歩いているのではないのでしょうか。尚、ゴルフではハーフで7,000~8,000歩ぐらいだと思います。

ある本に12週間ウォーキングのメニューをこなした後の自覚症状の改善度が書いてあった。その7割の人に肩凝り、腰痛、便秘、頭痛、不眠などの改善が見られたとの事であったが、12週間も歩かなくても1週間も歩けば改善の予感を感じられるようである。

先日糖尿病の研修会に出席した。というのは、潜在的糖尿病の患者さんが結構我々整形外科医を訪れているようだからである。(新患にはルーチンに検尿をして糖尿病の有無をチェックしている)その研修会で糖尿病の運動療法は、その運動エネルギーによって血糖を下げるというのではなく、

(一部それもあるであろうが)インスリンの分泌を少しでも促して血糖を下げるということであった。

その時ふと気づいたのであるが、ウォーキングというのは胃・肝臓・心臓など五臓六腑はもちろん、脳などの血流を増やし、その新陳代謝を高めているのだろう。従ってウォーキングは老人ボケを防ぐし、骨密度の減少も抑えることができるのだろう。

現在私は上記の3,000歩に加え、病院の往復を少し遠回りして3,000歩ぐらい歩くことにしている。一度やりすぎて失敗したことがある。というのは、夜も歩いてみようということで夜の10時から家内と2人で1日30分程2~3日歩いたところ、歩いた直後は大変気持が良かったのだが、あくる日の診察中に体に疲れが残っていることに気づいたのである。“過ぎたるは及ばざるが如く”であった。

要は人がそれぞれ自分に合わせ、適度なウォーキングをすれば良いのであろう。

最後にウォーキングの際には、上記のやり過ぎないということに加え、次の点に注意したら良いようです。

1. ラフな服装で歩くこと (夏であれば短パンにTシャツ)
2. ウォーキングシューズ (又はジョギングシューズ) 着用 の事
3. 背筋を伸ばして大股でやや早足、手を振って歩く事 (120~130歩/分)

以上、運動不足になりがちな先生方には、手軽なウォーキングをお勧めします。



## 菊田整形外科 女子 ラグビー部

菊田 勇

宮医大整形外科は、野球に力を入れている。田島教授じきじきに練習の特訓をされているとお聞きしています。

私は昭和48年卒業であるが、ラグビー学部・医学科の生活を、大学時代送ってきたような感があります。開院した39歳から、宮崎ラグビースクールで子供達と走っているのでありますが、マラソンに見られるよう、男子のスポーツ分野とされていた種目に女子の進出がめざましい今日です。ラグビーに関しては、小学校までは「9人制ラグビー」に全世界統一され、ボールの展開と走ることにより、見ても楽しいラグビーへと変化しています。タックルのないラグビーなんて考えられないので、ハードなタックルは訓練しますが、スクラムは組むだけで、押し合いは禁止されています。

そこで本院で女子ラグビーチームを創設しました。平成4年、日南産業際のいっかんとしてラグビー大会も開催された。ちょうど「ふうてんの寅



さん」の日南ロケが行われており、これも選手集めに利用しました。写真のごとくジャージーは「世界選抜チーム」と同じものを作製し、宮崎ラグビースクールママチーム、日南ラグビースクールママチームと県内はじめての女子ラグビー試合をおこないました。そのときの優勝メンバー（実のところ、本院のスタッフすべてであります。）の写真と新聞記事です。平成5年春は、熊本女子ラグビーチームに惜敗しましたが、6年度はまだ試合の機会がありません。

これからも生涯教育とともに生涯スポーツをめざしています。女子でラグビー愛好者がおられましたらご紹介ください。



## 「ロンドン、EMI アビーロードスタジオを訪れて」

大 平 卓

中学、高校時代、音楽に熱中して勉強が手につかなかった経験をもつ人は案外多いのではないだろうか。私もその1人である。当時よく聴いたのは、ビートルズ、レッドツェッペリン、ジミヘンドリックス、などであった。この頃の音楽は、現在の電氣的に加工されすぎて同じ様な音しかだせない音楽と異なり、ギター、ベース、ドラムどれをとっても個性のあるいい音を出していた。中でも、ビートルズには熱中し、これは現在まで続いている。当時、彼らはまだ活動中であり、最高傑作の1つと言われる“Abbey Road”というアルバムが出たのは私が中学2年の時であった。このアルバムのジャケットに使われている横断歩道は、ロンドンの Abbey Road, EMI スタジオの前にあり有名である。このスタジオは、ビートルズがレコーディングのほとんどを行なった所で、ファンならば、1度は行ってみたいと思うにちがいない。私は昨年このスタジオを訪れる機会があったので、報告してみたい。

実は私はこれまでに、1984年、1990年、1991年の3回（も!!!）、ここを訪れたことがあるのだが、中には入れてもらえず、玄関で記念写真を撮って来ただけだった。昨年は、バルセロナの国際リウマチ学会に出席するというので9日間、休みがとれたので、ロンドン滞在を思いついた。幸い、学会発表が3日目だったので、3日間ロンドン滞在ができた。今回は日本の東芝EMIレコードの社長にお願いして（実は私の所のレントゲン器械が東芝製なので話をつけてもらった）紹介状を書

いていただいた。EMIスタジオは地下鉄のセントジョーンズウッド駅から歩いて数分の静かな住宅地の中にある。おそらく、日本人で4回も訪れた人はあまりいないだろうし、中に入れてもらった人はほとんどいないと思う。今回は紹介状をもっていったので親切に案内してもらった。スタジオは地下に3つあり、第2スタジオがビートルズが使っていたもので、彼らが使っていた当時から全く変わっていないとのことだった。第1スタジオは、あのスターウォーズの音楽が録音されたそうである。その他、彼らが使っていた録音機器をみせてもらい満足して帰って来た。

これぐらいでおどろいてはいけない。実はこれ以外にも、私は以前にビートルズゆかりの地を訪れている。1990年、BostonのDr. Harrisの所へ行った帰り、ニューヨークの高級アパート、ダコタハウスを訪れた。ここはジョン・レノンが長く住んでおり、1981年玄関前で彼が暗殺された所として有名である。また、1991年、Wrightington病院に手術研修に行った時、休日に車で1時間の距離にあるリバプールまで行き、ビートルズ4人の生家のみて来た。

なぜ、自分がここまで熱中できるのかわからない。ビートルズの音楽は青春時代のすべてであり、現在それに代わる様な魅力的な音楽がないというのが理由だろうか。それとも、何でも徹底的にしないと気がすまない私の性格からくるものであろうか。

どなたか、私と同じ音楽に興味のある方がおら

れたら、ゆっくりお話がしたいと思います。



図1 ロンドン、アビーロードスタジオの入口で



図2 アビーロード、第2スタジオの中  
後ろのピアノはビートルズが使っていたもの

## 1994年と2004年にふと思ったこと。

千代反田 修

▷1994にふと思ったこと。

医薬分業で本当に医療費のうち、言われてる分を削減できたのでしょうか。抗生物質を原則として一日4グラムから2グラムしか認めなくなったため抗生物質の市場が8000億円から4000億円となり（製薬会社のある幹部はなぜか裏切られたという言い方をしたけど）日本製薬株式会社の経常利益は増えているから薬の消費量も減ってはいないのでしょうか。やはり医師は必要だから投薬してるとは思いませんか。

医薬分業で患者は処方箋料を払い、調剤薬局で待たされ、時間も失いました。医薬分業は結果として国民の負担となったほうが大きいのではないのでしょうか。たとえ国家の財源が浮いたとしても、そのぶん国民にツケ（上品なお言葉ではそれ相応の御負担）がまわるような選択しかとらないのなら、税金を納めたうえ自己負担は増えるだけではないのでしょうか。

江戸時代からずっと続いている働けど働けどわが暮らし楽にならずじっと手を見る社会がまだまだ続くなら、日本国民に生まれてきて幸せだったと思うにはあと何百年生き続ければいいのでしょうか。えっ、そんなに長生きしてもらったら困るって？  
▷2004年にふと思ったこと。

医療機関にかなりおんぶにだっこだった福祉を、医療費削減の流行語のもとに医療機関から福祉機関への移行がかなり進んだ昨今、しかし完成は財源的にとっても無理だったようです。新たに福祉関連に要する費用が医療機関に任せるより割高にな

ったからのようです。

結局、医療と福祉の合計で考えると、いくら医療費が削減できたとしても、福祉費のほうがその何倍も費用がかかったからです。1994年と比べて老人の人口が増えたから、という御用達マスコミの説明ももう聞き慣れてしまいました。

1994年頃いかに医療機関が割安に福祉の肩代わりをしていたのでしょうか。合計で考えると確実に費用がかかってしまいましたが、そのツケを強いられたのはやはり国民でした。医療と福祉を融合した形態に変えていたほうが、国家も国民も良かったのではないかと時期遥かに手遅れながら心配になりました。

16年前、訪問看護がかなり充実してるといわれたある財団病院に勤務してたとき、訪問看護をしている看護婦さんの話では、一日8軒まわるのがやっとですと言っていました。しかも一週間に一回しかまわれないので、実際は亡くなっていたのに気づくのが最高一週間で、発見したら白骨化してたということがなくなっただけのことではないですかということでした。ちなみにその病院は1994年になぜか突然閉院させられてしまいました。

核家族化してしまった社会で点在する老人在住の家を訪問することは2004年でも土台無理な話で、むしろ夫婦どちらかが弱ってしまったら希望者は入居させるまとまった施設造りに公共事業費（言葉があやふやな日本では公共とは公共にあらずの意味かもしれませんが）を使っていたほうが良かったのではないのでしょうか。

環境が悪いのか、親不孝ものが多くなったのかわかりませんが、子供たちの許可を得るのも大変な社会になってしまいました。老夫婦の土地・家屋を市町村で財産として良心的に売却を含め管理・運用し、不幸にも老夫婦が亡くなった場合は残金を子供たちに返し、足りないぶんを福祉費として計上すれば費用はそんなにかからなかったのではないのでしょうか。

いずれにせよ死んでしまったら日本の国民の大半は国家という大屋さんにほとんどすべてを持っていかれる制度だし、あの世に持っていくことは多分無理でしょうから1994年はやり始めた生命保険のように、汗水流して築いた老夫婦の財産を、老夫婦のために、生きてるうちに使ってあげたほうが老夫婦の幸せになったのではないのでしょうか。

我々同様、汗水流して国家のために一生懸命仕事されてる官僚の方も、出世が終われば一国民だし、天下り先をせせと造ったとしても、このほうがよほど楽だったのではないのでしょうか。

統計がでる頃、最長寿国日本と自慢する人もまだいるようですけど、国内では長生きすることがこんなに肩身の狭い社会になろうなんて、2014年には金満長寿難民大国になってるのでしょうか。いや、すでに欧米は1994年、いつまでたっても内需拡大しきれず、外国にばかり利益を求める日本に市場開放の期待感を失い、無駄な労力を日本にそそぐより日本を除いたアジアに経済圏をシフトしてしまいましたので、2014年には貧乏長寿難民大国になっているのでしょうか。大半の日本国民の安住の地はなくなっているかもしれません。

▷夢から覚めた1994年、年の瀬も近くなってきました。明るい話という宮崎は渇水にならずに良かったです。

この際、東九州自動車道の傍らに、福岡・長崎までの水道パイプラインを造れば、熊本・佐賀・長崎・福岡も雨が降らないところにダムを造るムダがなくなり工期も工費も少なくすみ、宮崎・鹿

児島もあまつる水で水道使用料がはいりお互い助かるのではないのでしょうか。何千キロもの、国をまたいだ原油パイプラインが他国にはあると聞きます。突貫工事なら2ヵ月間もかからないかもしれません。

私は法や規制など知らない素人です。ちなみに規制は行使する側に立って平たく言えばマニュアルですが、マニュアルがないと地方の役人は何もできないと中央の方では考えているのでしょうか。立派なことができる役人は出世してもマニュアル作りに奔走せず、民・百姓のために踏み止どまって欲しいものです。

日本を車にたとえるならあまりにきめ細かい規制という潤滑阻止剤で動けなくなった高級車のようなものです。お偉い方が居心地が良いと車内で熟睡してる間に自転車に乗った人たちがどんどん追いついていってます。そのうち車も錆ついてくることでしょう。

笑う門には福来ると申します。玄人の方は（日本ではいかに利権が群がれるかを知っている人を意味するようですが）鼻で笑わず、大いに笑って良いお年を迎えください。

▷いまや日本は世界の中の迷える子羊なのでしょうが、医療に限定しても、老い先短いお偉い方は、すでに職務義務を放棄したことにさえ気づいていないのではないのでしょうか。

江戸時代、百姓は米を作っても年貢として納め、自分たちは粟・稗しか食べてはいけなかったそうです。日照りで何も食べるものがなくなってそれでも我慢し、我慢できなくなった餓死寸前、骨皮筋工門になってやっとのことで鍬や鎌を持って百姓一揆をするもんだから簡単に切られていたようです。これに比べて世界で初めて自由を勝ちとったフランスでの EC 統合の際に見せたフランス国民の行動は、日本国民の行動と好対象的です。

江戸時代に慣らされてしまったのか、日本国民がしいたげられることが本来好きなマゾ民族なの

かもしれませんが、このままでは日本のあらゆる職種で百姓一揆が起きるのは火を見るよりあきらかです。これが年貢の納め時だと、待ってましたとばかりに切られていくのでしょうか。

地球を見わたすと開発途上国は宗教国家が多く、先進国は政治国家と色分けできます。開発途上国は文字が読めない人が多いため、神様を創って、間違いを犯したら神様に罰せられるからという教えで国家を維持しなくてはならないし、文字が読め、情報がはいる社会では政治でなければ国家は維持できなくなります。宗教国家の欠点はある意味では言われるとうりにしなければ神様から罰せられるという恐怖社会につながるものがままあるし、先進国ではすでに宗教と政治を分離した時代を乗り越えて築いた政治社会でもうまくいかなくなってきており、次の社会体制を論ずる学者を必

要としてる時代にきてるのにそれだけの学者もいないようですし、国家をまとめるのは大変なことかもしれません。日本社会は表向き先進国とおだてられているようですがほんとはどちらに近い国家なのでしょう。

私は小学校時代、日本人が最も勤勉で優秀だと教えられましたが、外人と仕事をしてみると私の知ってる勤勉もしくは優秀な日本人より凄い人はいましたし、最も平和で民主的だと教わったけど、なぜか外国で生活したときのほうがのびのびできましたし、本当のことはどうだかわかりません。

犯罪にしても、拳銃を持ってる米国と持たない日本と比較してもしょうがありません。日本国は武器を持つとすぐ戦争しがちなことは歴史上あきらかですし、多くの外国の人、特に近隣諸国はこのことを良く知ってます。





## 医局長雑感—40歳を目前として

黒木俊政

本年8月に高校卒業後20年の同窓会が宮崎市において行われました。同級生とは良いもので会話を始めたときに20年前にタイムスリップしてしまいます。久しぶりに見る同級生はある者は髪が薄くなり、ある者は顔にたくさんの皺やシミをつくっていますが、この20年の歳月は彼らを確実に人間として成熟させていました。

同級生W：現在某テレビ局ディレクター

「おまえはまだ小説を書いているのか？」これが彼の私への第一声であった。思えばこの人物を含めて複数で未熟な小説らしきものを発表していた時期もあった。「なんでまた、おまえは医者なんかになったんだ？」と言う彼の言葉に「いろいろ事情があつてな！」としか答えられない私は彼に反撃を試みる。「彼女のイヤリングは返したのか？」彼はこの同窓会に出席している彼女と19年前に一緒に東京で暮らしていたのだが、彼女に振られて彼の部屋には彼女の忘れたイヤリングだけが残っていた。勿論現在は二人とも別々の幸せな家庭を持っている。「イヤリングを返す勇気がないんや」と彼は20年前の少年のような恥ずかしげな表情で言う。

同級生Y：現在弁護士

京都大学を卒業後同じ京都大学の同級生と結婚、しばらく専業主婦であった。現在子ども一人有り。完全な関西弁にて会話。「京都大学法学部卒業でなかったんねん。だから神戸大学法学部に学士入

学して勉強し直したんよ」「3年まじめに勉強すれば司法試験かて合格するわ！」と彼女は言う。人生に対するしたたかさと同時に自分自身で努力した人間の自信が窺える。

同級生Y：自営業

大学卒業後、家業を継ぐ。血色すこぶる良好。「宮古島トライアスロンに出場したよ！」本来明るい性格の人物だが、本当に人生を楽しんでいる様子が感じられる。自転車焼けした顔がすがすがしい。しかし待てよ。彼は20年前は日本武道の猛烈な愛好者だったのではないか。文化祭で日本刀の真剣で「居合い」を披露し、満座の拍手を受けた20年前の姿はどこにいった。「健康には気を付けんと。医者の不養生になるなよ！」

人間何が幸せで何が不幸せなのか？それは個人の価値観や環境により様々であり一概には答えられないことでしょう。私も40歳を目前として、医局長を経験させていただき、また人生の新たな一面を見させていただき、非常に良い経験となりました。

40歳は不惑の年と若い頃は一種の憧れすらあったのですが、こうして40歳目前ともなると、不惑どころかますます多惑とも言うべき状態にある自分に気づき愕然とするものです。医局長として経験させていただいたものをまた1つの糧として、今後の自分自身の人生に役立てていこうと思う今日この頃です。



### 開業にあたって

三股病院整形外科 三股 恒夫

私の場合、外科医である兄を院長とする病院での整形外科開設ですので、開業にあたって、と言うテーマはおかしいかもしれませんが、近況報告ということで筆をとらせていただきます。

私の仕事場は、日向から車で約20分南に下った人口4000足らずの美々津町というところにあります。東に太平洋を望み、西には尾鈴山そして道路をはさみすぐ南側を清流石並川が流れております。また車で10分足らずの所にはゴルフ場（美々津カントリー倶楽部）もあり、環境としては宮崎県一ではないかと自負しております。さて、この地で仕事を始めて8ヵ月があつと言うまに過ぎてしまいました。診療内容は以前と殆ど変わらないのですが生まれ育った土地なので患者さんのなかには、昔よく通った駄菓子屋のおばちゃんとか同級生のお父さん、お母さん達といったような見覚えのある顔が多く昔話で診療時間の半分が費やされることもしばしばです。ゴルフ場が近いせいもあり腰痛、膝痛で悩んでおられるキャディーさん達も多

く時々見えます。彼女たちのためにゴルフバッグを担いで週に1回往診することになっています。因みに現在のハンディーキャップは10です。また美々津には耳川河口に漁港があり、夕方から時々釣りを楽しむこともあります。近所のおじさん達がどこからか集まり腰痛、膝痛等について相談されたり、釣り自慢をうんざりするほど聞かされたりしなければ最高です。とにかく過疎化による人口の減少や医療法改正による病院経営面での不安を除けば、のんびりとしており私にとって生活するのに最適な所です。今後どれだけの期間この地で医療活動がつけられるか分かりませんが、誠意ある医療をもっとうに地域に貢献したいと思っております。

最後になりましたが、S58年6月に宮崎医大整形外科学教室に入局以来公私にわたりご指導いただきました田島直也先生をはじめとする同門の諸先生方に心から感謝を申し上げます。





# 渡辺整外科病院をよろしく

渡 辺 雄

平成6年7月より宮崎医科大学整形外科教室の関連病院として教室員の派遣をして頂くようになりました。田島教授をはじめ教室員の先生方には心より感謝致しております。当院はベッド数40床の何の取り柄もない病院で、来て頂く先生方には本当に申し訳なく思っています。一応日整会の研修指定病院にはなっていますが、“自主研修”して頂だけで研修指導医（私）は全く頼りになりません。当院にとって記念すべき大学からの派遣医の第1号の犠牲者は大田博人先生で着任してすでに3ヶ月が経ちました。当院での彼の人気と信頼は絶大で私も本当にいい先生を派遣して頂き感謝致しております。日常の診療は退屈な外来と外傷を主とした手術です。手術は麻酔医を含めて大体どんな手術にも対応できるようにはなっています。ただ当院の様な病院は一日中外来をする一方で、同時に手術もしなくてはならない宿命にあります。手術は原則として大田先生にして頂き、私は助手としてつかせてもらう様にしています。当然手術の間は外来を見て頂く先生が必要なわけで、現在は不定期に非常勤の先生にきてもらっていますが、なかなかそれもままならず、外来が終って手術を始めることも度々です。また来年の8月には当院の関連施設として老人保健施設を開設予定

で、すでに工事も始まっており、私にとってはそちらの方の仕事も忙しくなってきました。大田先生にその躰寄せがきて申し訳なく思っています。そういうわけで、調子にのるな、甘ったれるなという言葉が飛んできそうですが、願わくば私と違って立派に研修医を指導できるような認定医がもう一人大学からきて頂ければありがたいなど無理を承知であえて御願ひする次第です。病院は福岡市の隣の前原市（まえばるし）にあります。福岡市の繁華街の天神には地下鉄で20数分くらいで福岡市のベッドタウンになっています。市の人口は年々増えており、数年後には九州大学の本部キャンパスがすぐ近くに移ってくるなど、都会に近い田園風景もだんだんのどかさを失ってきています。福岡は学会や研究会、講演会などが比較的多く、耳学問や目学問だけで生きている私にとっては格好の場所です。日整会の教育研修会の単位取得には不自由しないのが認定医にとっては唯一のメリットかもしれません。宮崎医大を出て飛行機、地下鉄を乗りついで2時間少々で当院に着きます。どうか遠い彼方の関連病院と思わないで、今後末長く御支援、御指導の程よろしく御願ひ申し上げます。

## 藤元病院

福田 健二

藤元病院は、他に3つの病院を有する社団法人八日会に属する病院である。診療科は整形外科の他、外科、脳外科、麻酔科、精神科、歯科がある。各科の病床と常勤医師数はそれぞれ、整形外科25床、2人、外科25床、2人、脳外科50床、2人、麻酔科8床（ICU）、2人、精神科427床、8人、歯科0床、1人であり、この病院が精神科主体の病院であることがわかる。もともと精神科の病院が必要に迫られて、脳外科を併設し、手術の必要から麻酔科医を置き、その後の必然的要請から外科、整形外科が併設されたとのことである。そのため、一般病院としてはスタッフの教育や病棟管理のソフトの面でまだ十分でないような気がする。今まで赴任した整形外科の先生方が苦慮していたのもその点ではないかと思う。

外来は月曜日から土曜日まで毎日、午後も受け付けている。月、水、金が福田、火、木が吉田先生、土曜日は隔週で交代に診るようになっている。内容としては、整形外科全般にわたっているが、八日会の系列病院からの紹介が多いのが特徴である。また、交通外傷、特に脳外科がらみの頸椎捻挫が多いという印象がある。患者数は一般の開業医の先生とは比べものにならないが、病院内では一番の働きがしらだと自負している。

病棟は外科との混合病棟で、一応病棟全体で50

床、整形が25床ということになっているが、どうしても整形の特性として患者さんが増える傾向にあり、25床におさえるのに苦慮している。手術日は火曜と金曜に定めているが、外科に比べて、明らかに手術件数は少なく、同じ病棟内で肩身の狭い思いをしている。ただ、常時何にでも対応できるようにしようと吉田先生と話している。そういう点では志気は高いと思う。また、外来、病棟とも吉田先生が頑張ってくれているので非常に有難いし、助かっている。

さて、私事であるが、8月1日付で前任の永井先生に代わって着任した。住まいは病院から歩いて6分の所にあり現在、徒歩にて通勤している。途中に、姫城川という小川が流れており、この川に沿った小道を歩いている。何の変哲もない川であるが昔の風情を残していて、川を泳ぐ小魚や川面を翔んでいるトンボを見ながら歩いていると、子供の頃遊んだ風景が思い出され、心がなごんでくる。忘れかけていたものが少しずつよみがえってくるような気さえしてくる。こんなノスタルジーを感じることはここ数年なかった。自分が歳をとった証拠かもしれないが、精神的なゆとりがそうさせているのかもしれない。川の中に捨てられた空き缶を見て、環境問題にまで思いを馳せてしまう今日この頃である。

## 高千穂町国民健康保険病院

鳥取部 光 司

古事記や日本書紀で語られる神々のふるさと高千穂は、高千穂峡、雲海橋をはじめ、付近には国見ヶ丘、天岩戸温泉、五ヶ瀬スキー場のある四方を山々に囲まれた神話と伝説の町である。

町立病院は、昭和26年に診療所として開設し、28年に高千穂町国民健康保険病院となり、地域の医療需要に応え施設の整備及び診療機能の強化と充実を図り、現在111床の病院となっている。昭和63年7月より、整形外科医師は、2名となり、その他の診療科目は外科2名、内科3名、循環器科1名、小児科1名、泌尿器科2名、週一回診療

の皮膚科がある。最近では、平成6年5月に自治体立優良病院として自治大臣の表彰をうけ、6月より基準看護（特2類）が実施されている。

現在、整形外科では、週2～3回の手術と一日130人程の外来診療、入院患者は20数人あり、日展会研修施設として申請中である。また、平成9年度には病院移転が決定しており、延岡市、東臼杵郡の一部、及び西臼杵郡で構成される宮崎県北部2次医療圏における中核病院として、今後ますますの発展が期待できる。



～ 高千穂町国民健康保険病院 ～

# 上天草総合病院

植村 貞仁

記録的な猛暑の夏も過ぎ去り、少しずつ秋の深まりを感じる龍ヶ岳である。天草地方も全国的な水不足のご多分に漏れず、いまだに夜間断水が続いているところが多い。しかし、龍ヶ岳町は芦北より水が供給されているため、水不足の難は逃れています。

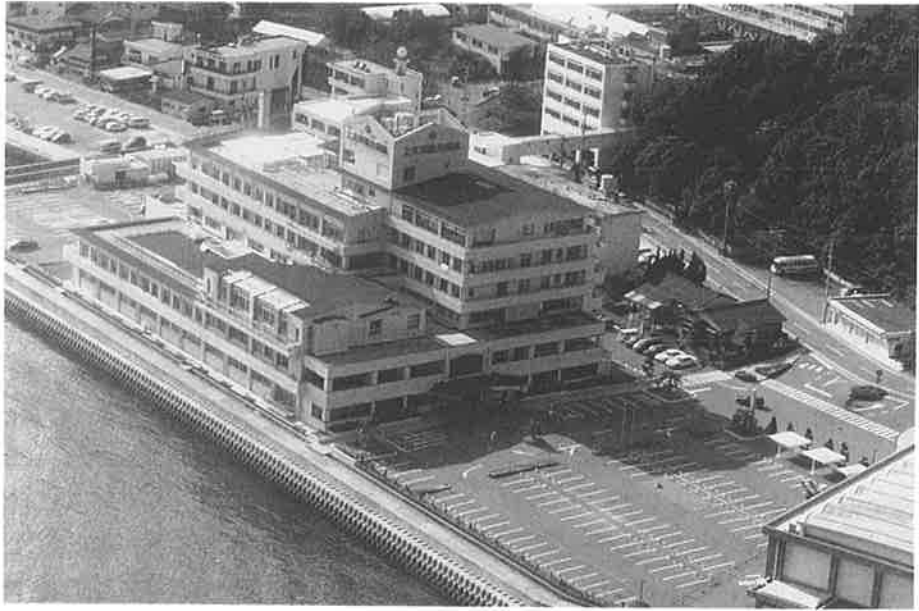
病院の所在地である龍ヶ岳町は、天草上島の八代海側に位置し、風光名眉な天草五橋には車で約30分でいけます。観海アルプスの主峰「龍ヶ岳」にその名を由来し、今年が旧三村合併40周年、町制施行35周年そして病院創立30周年とまさに記念すべき年にあたり、その記念行事や式典が続いています。

病院は昭和39年創立後、昭和47年7月上天草大水害にて大打撃をうけるが、その後復旧して平成3年7月現在の新病院がオープンしました。新病院は海岸沿いに位置し白壁で、まるでリゾートホテルと見違えそうな雰囲気のある建物である。(写真参照) 新館は6階建てで、1階が外来、2階が急性病棟、ICU、手術場及び医局があり、3階は小児病棟、4階は母性病棟、5階が慢性疾患病棟そして6階は職員食堂となっている。病床数200でいつもほぼ満床に近い状態が続いている。外来は、内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、喘息、循環器科、眼科、皮膚科、耳鼻科、泌尿器科、歯科口腔外科等18診療科あり、CTはもちろんMRI、血管造影装置を備え、整形には欠かすことのできないリハビリ施設も充実していま

す。毎日の外来患者数は、全体で約450人で、整形が90人前後で慢性疾患が多いようです。上天草地域では総合病院は当院のみで、しかも整形外科は下島の本渡市にあるのみなので、当院の整形外科の需要は大きい。龍ヶ岳町は、人口約6000人余りで海岸側の道路沿いに家が立ち並び、漁業中心に栄えている。繁華街はないので少々物足りなさを感じる人もいるかもしれないが、休日には釣人があちらこちらで竿を垂れて余暇を楽しんでいる風景に巡り会うことが多い。夜はネオン街、休みはパチンコで時を過ごしているような市街の生活人では到底想像できず、私個人的には、大変素晴らしい生活地域であると実感している。4月に、大道の龍ヶ岳山頂昇り口に新官舎が完成し、毎日目前に広がる八代海を眺め、また後方の森林からのウグイスやホトトギスの囀りを聞き、山頂にはミューイ天文台が設置されているように夜の星座はとても奇麗に観測することが出来ます。このように、天草は海、山、空とそれぞれに自然を堪能することができる所です。

いま病院の駐車場では工事が進んでいる。それは高齢化率が23.4%と高い本町には要望の強かった「上天草老人保険施設」を建設しているのである。また旧町立病院は役場庁舎に生まれ変わるために間もなく改築工事が始まることである。

今からもさらなる飛躍を期待できるこの龍ヶ岳に、みなさんも是非仕事に遊びに来てください。



～ 上空から見た上天草総合病院 ～

## 百瀬病院

浪平辰州

百瀬病院は清武町より南へ約60km日南海岸国定公園沿いに走った南郷町にあり、病院4階からは真っ青な日向灘を見渡すことができる。

本院は昭和39年6月、百瀬寿之院長により“地域の皆様に親しまれて心から愛される病院でありたい”という理念のもとで設立され昭和54年には新館増設、平成4年8月法人化され現在に至っている。

医局は院長を含め外科医4名で外科、循環器科、胃腸科、呼吸器科系統を中心に診療されている。

整形外科はこれまで週2回大学からの外勤であったが平成6年7月より常勤となり私が第一号として赴任した。院長、外科の先生方の協力を得て約18ベッドを確保し、(実際はまだ13～15ベッド

位)一日平均25～30名の外来診療(月曜日～土曜日午前中まで毎日)を行い、外傷を中心に手術を行っている状況である。外来患者のほとんどは60歳以上の高齢者で当然の事ながらOA主体の疾患となっている。

co-medical staffの方々も院長の開院の理念が浸透しており、気安く通院できて、しかも医療技術、医療施設、看護体制その他あらゆる部門で地域の中核病院になれる様努力されており、仕事のしやすい病院である。

今後、だんだんと症例が増えて行き医局の関連病院として大きな存在になっていければいいなど考えている。

## スイス留学を終えて

帖 佐 悦 男

まず始めに、留学の機会をあたえていただきました田島教授ならびに同門の先生方に御礼申し上げますと共に、留学中皆様に御迷惑をおかけ致しましたことを御詫び申し上げます。

私は、平成5年9月より平成6年8月まで、木下学長および田島教授の御推薦をいただき、SwitzerlandのBerne大学に留学させていただきました。

前回のスイス便り(開講二十周年記念誌)では、スイスでの生活を時の流れに沿って報告しましたので今回は、一般的な事を含め報告致します。スイスの国名は、die Schweizerische Eidgenossenschaft(独語)、Confederation Suisse(仏語)、Confederazione Svizzera(伊語)と表現され、公用語としてスイスドイツ語73%、フランス語20%、イタリア語5%、ロマンス語1%が使用されています。人口は約670万人で5,6人に一人が外国人です。面積はなんと九州よりやや小さい国です。私の留学先は、スイスの首都、Bern(独語)にあるInselspitalです。この病院はCanton(州)の病院でもあり、Berne大学の大学病院でもあります。Bernの発祥は、1191年、ツェーリンゲン公国のベルヒトルト5世が砦を築いた事で始まり、名称もその際、5世がこの地で狩りをして最初に射止めた熊(Baeren)に由来されているとのこと。また「ヨーロッパで最も美しい緑と花の町」とユネスコで指定されています。特に、Bernはスイスドイツ語の中でもベルンドイツ語とよばれ、数字の数え方も一部異なり、Danke, Guten Tagという日常一般の

ドイツ語の言葉さえほとんどの人が使用していません。自分で覚えた必要最低限度の日常会話でさえ異なった言葉で話しているので非常に戸惑いました。今でも御年輩の方が話されているのを聞いてもお経のようにしか聞こえません。実際、病院を意味するSpitalという言葉も標準ドイツ語ではKrankenhausと表現されます。

Berne大学は、細菌学で有名なコッホ教授が研究をされ、現在でもその建物が昔のままの状態で見守られています。整形外科は、人工関節で有名なMueller教授が在籍されていたところで、現在はHand Chirurgie, Kinder Orthopaedieは独立した講座を持っています。ChairmanはGanz教授でその他膝、スポーツで有名なJakob教授、肩で有名なGerber教授(現、Fribourg大学教授)らが診療にあたられておられました。基礎的研究は、AOの本部のあるDavosやMueller研究所で臨床と直結して行われていました。従って、想いついたInstrumentやDevice等をすぐ試作してもらうことができ役にたてば商品となります。そのためパテントをすでに数多くもっている先生もいました。例えば、つば付きカップ(THA用)、LCDCPプレート等。

さて、臨床面は、グループ別に治療を担当して行っていました。股関節の中心はやはり、Ganz教授の始められたPAO(骨盤骨きり術)で、他に大腿骨骨きり術、人工関節置換術(revision以外は全てセメント使用)、脊椎は、Pedicule Screwが中心でしたが、より安全に行えるよう現在コンピュ

ーターを使用した手術システムを治験中でした。また脊椎の創外固定を行い症状の軽快した患者に、二期的に固定術を行うという理にかなった方法を用いていました。膝関節は、ACL 再建（超早期よりリハビリを開始）、人工関節、肩関節は、鏡視下手術、足は、慢性疾患の手術、固定術（アプローチは殆ど後側方）、骨折は、手術の適応が広く？、とにかくプレートを好んで使用していました。悪性腫瘍に対しては、カスタムメイドの人工関節、転移には二枚のプレートを用いその一枚は補強として髓内に使用するというユニークな手術をしていました。手の外科もやはり鏡視下手術を汎用し、腕神経叢麻痺の再建手術等も行われていました。

手術に関しては、御存知のようにドイツ方式（挿管等の麻酔の導入、手術、抜管等を行う部屋が別になっている）のため整形外科専用の手術室、その他緊急手術室、感染専用の手術室があり、待機手術は、一日三台の手術台を使用し毎日約十例行われ、その後緊急手術を行うというシステムをとっていました。従って、症例数ではとても太刀打ちできないと思いました。

外来は、1) 予約紹介性、2) 月曜日、上肢、火曜日、膝グループというようにグループ性を採用しており、とにかく一人の患者にかなりの時間を費やしその時点で入院、手術の説明も行っていました。

入院に関し、待機手術の患者の場合、手術前日に入院し術後約一、二週間で退院します。病棟担

当の医者は、担当期間（約一、二週で交代）は病棟管理のみを行い、手術担当の医者は、普通朝から夕方まで手術室に入ったままライターの先生の助手をします。従って、昼食は手術室で症例の合間に軽食（パン等）をとるだけですませます。

さて、スイスでの生活は毎日、朝6時に起床し6時半、病院へ。7時15分よりカンファレンス、手術日（一般的にはグループごと週に四日、一日外来）は8時より手術（患者入室、7時ごろ）、その後毎日教授回診（但しグループの患者のみ）。急患があればその後手術。従って、希望すれば深夜まで手術の助手、見学をすることができます。但し、普通は土、日曜日は公休となり緊急手術のみ行われます。

スイス（ヨーロッパ）で働く事と日本で働く事の大きな違いは、1) よく言われていますように、日本は会社中心、外国は家族中心、従って、仕事終了後仕事仲間だけで飲食に行く事はあまりありません。2) 一年のうち、彼らはいつでも最低三週間の休みがとれる等です。

最後になりましたが、留学して最も感じた事として特にヨーロッパの国々は他の国と陸続きのせいもあり比較的外国の文化を取り入れ易い環境におかれています。それでもなお自分の国の文化を非常に大切にしているので、私自身、もう少し日本の文化を見直し大切にすべきだと感じました。

以上を、私のスイス留学の御報告とさせていただきます。



ガンツ教授と（教授室にて）



ライブオペレーション（ヒップシンポジウムにて）

## Spine Across the sea in Hawaii に参加して

久保 紳一郎

H 6 年 5 月 ハワイ・マウイ島にて開催された第 1 回 Spine Across the sea = 日米韓合同脊椎学会に参加する機会を得ました。私にとりましては H 3 年に第 1 回日米スポーツ整形外科学会（ハワイ・カウアイ島）にお伴させて頂いたのがはじめての国際学会であり、“第 1 回”、“ハワイ”という言葉に因縁めいたものを感じながら、福岡国際空港を後にしました。今回は田島教授夫妻・鳥取部・久保の 4 名でしたが、私だけは旅費をケチったおかげで別便の JAZ Pack?（JAL のチャーター便で中身はマレーシアのクルー）で新婚さんに取り囲まれのっけから幸せな気分ひたりながら（？）の出国となりました。さて、学会のほうですが、田島教授はあるときはシンポジストとして、あるときは Chairman として忙しく会場を回られておられましたが、私と TOTO（便器ではなく鳥取部君の愛称）は教授のひんしゅくを買いながらもポスター発表という卑怯な手段をとりなんとか無事発表を終えました。今回の学会で感じたことは日本の脊椎外科では病態についての臨床研究や基

礎研究に関する発表が比較的多いのに比べアメリカ・韓国側は背後に医療産業の見え隠れする発表が目を引き良くも悪しくも commercialism の強い雰囲気でした。この点では日本の脊椎外科はまだまだ健全でむしろ世界に誇れるのではないのでしょうか。ただやはり言葉の壁は厚いようで、国内の学会ではやたらと英（単）語を使いたがる高名な先生方が質疑応答に悪戦苦闘されている姿には同情を禁じ得ませんでした。（もっとも私もまったく英語がダメですから悪しからず。）また日本では頸椎の Laminoplasty が花盛りで数多くの術式が編み出されていますが、アメリカでは Laminectomy 後変形予防には plate 固定が主流で考え方の違いを感じました。腰椎では、Pedicule screw + PLIF・人工椎体・人工椎間板などの device の展示が多く、そのうち脊髄以外はすべてチタン性になり十年ごとに取り替えるようになるのではとってしまうぐらいでした。最後に学会発表の機会を与えて頂いた田島教授に紙面を御借りして深謝致します。



クルージング中のひとコマ



# しあとる報告 — 宮崎県高校選抜バスケットボールチーム 米国遠征に参加して —

田 辺 龍 樹

最初に「このチームの随行医師として同行して  
くれないか」と、話を持ちかけられた時に、「何  
と無謀な事を」と言うのが正直な気持ちであった。  
しかし、中学、高校、大学、社会人でと、かれこ  
れ20年間バスケットをしてきた私は、何かしら血  
が騒いでいる自分を感じたのである。そこで許可  
を得るために、田島教授に話したところ、二つ返  
事でOKがもらえた。と言うのも、教授自身、学  
生時代バスケットをされていたからであった。た  
だし夏休み休暇を利用してとのことであったが…  
…。

こうして、病院の同僚たちへの申し送りもそこ  
そこに、8月17日シアトルへと出発した。機上で、  
まだ見ぬ世界への期待と不安が入り交じるなか、  
心配事はチームの人達に大病や大きな怪我があ  
つたらどうしようかということだった。少しばかり  
の医薬品は持参していたが、予期せぬような事態  
が発生した時は、お手上げ状態であることは容易  
に想像できた。現地では、午前中の練習前と午後  
からの試合直前のテーピングが主な仕事で、予期  
せぬ事態が起こらなかつたのは幸いであった。た  
だ、やはりゲームの中の当たりが激しいのか、足

関節の捻挫が日毎に増え、遠征途中で持参したテ  
ープでは足りなくなり、あわてて薬局に駆け込む  
程であった。他には軽度の外傷が数名に発生した  
だけで、試合観戦に没頭でき、没頭するあまり選  
手が倒れても気が付かず、他のスタッフに指摘さ  
れあわてて現場に駆けつける始末であった。何せ、  
チームドクターの経験が初めてであり、私には良  
い経験になったと思う。

チーム成績は、当地のワシントン州でファイナ  
ル4チームと対戦して、1勝3敗であった。何せ  
各チームに2 m 台の選手が2、3人はいて、こ  
ちらは最高195cmなのだからよく頑張ったほうだ  
と思う。同行した日本女子監督の中村和雄氏も  
『この一勝は、宮崎県のバスケットにとっては大  
きい』と絶賛されていた。勝った時は、スタッ  
フも選手も蜂の巣をつついたような騒ぎであつた。  
こうして約1週間の滞在の後、皆元気で帰ってこ  
れた時は、ほっとした。

最後にこのような機会を私に与えて下さった宮  
崎県バスケットボール協会関係者の皆様に感謝し  
たします。



## GOTS fellow in Miyazaki

樋口潤一

昨年、黒木俊政先生が日本側の fellow としてドイツ、オーストリア、スイスへ行かれたが、今年には GOTS よりの fellow が日本を訪れ、6月4日から7日までの4日間宮崎に滞在することとなった。当初の予定では医局長でもある黒木俊政先生が fellow のお相手をする予定であり、補佐の役目が私に回ってきた。その4日間を彼らのコメントを交えながら報告します。

〈6月4日〉

13時着の全日空機で宮崎に到着、国際学会での発表経験のある Dr. 松元と、4ドアの車に乗っているという理由だけで選ばれた Dr. 本部（実は流暢に英語を操るらしい）と樋口で迎えに行った（このメンバーなら体格負けしないだろうと言う配慮もなされていたらしい。）。今回日本へやってきたのは、

Dr. Hans Gerd Pieper (Essen, Germany) : ハンドボール、テニスが専門、地元のハンドボールチームのドクターもしている Dr. Martin Engerhart (Frankfurt, Germany) : ドイツトライアスロンチームのチームドクターをしており自分でもトライアスロンを行っている。

Dr. Beat Hinterman (Basel, Switzerland) スイスのスキーチームのチームドクターをしている。

Dr. Klaus Dann (Wien, Austria) : 自分でもスノーボード（雪上でするサーフィン）を行っており、スキーやスノーボードのチームドクターをしている。の4人であった。4人はソウル、濟州島、神戸、大阪を経て宮崎へやってきた。宮崎空港からホ

テルへの途中、道沿いに緑が多いのがかなり気に入ったらしく、特に Dr. Engerhart は、ソウルは「Traffic, Traffic, Traffic…」神戸、大阪は「High Building and people, people, people…」でうんざりしたが宮崎は緑が多く気に入ったと語っていた。

ホテルにチェックインし、昼食へ出かけるとき、ロビーでJリーグの試合を放送していた。そこにいた、Dr. Engerhart と Dr. Hinterman に「これが Japanese professional football league だ」と説明したら、Hinterman は Engerhart に「日本もアメリカに行くのか？」と聞き Engerhart は「いや、最終戦で引き分けてダメだったらしいよ」と答えていた。

この日の夜は宮崎県スポーツ医学セミナーと題して彼らの講演が行われ、それぞれに興味ある話で盛り上がりを見せた。



GOTS fellow  
宮崎スポーツ医学セミナー(6/4(土)、ホテルメリディアン)後の懇親会

左から Prof. Dr. Hinterman Dr. Pieper  
Dr. Engerhart Dr. Dann

〈6月5日〉

この日は彼らが疲れているだろうと言う配慮で、オーシャンドームへ行ってのんびり過ごさせようということとなった。オーシャンドームに到着し、彼らの第一声は“Unbelievable!!”であった。生憎の曇天で屋根は開かなかったものの、サーフィンやダンスのショーで十分に楽しんでもらえた様だった。また、たまたま遊びに来ていた旭化成陸上部の森下選手を見つけ、お願いして“Barcelona Olympic marathon の silver medalist”

と記念写真を撮ってもらった。この時、ちょっとしたスポーツ医学相談室となり、選手が彼らにいくつか質問や相談をする事となったが通訳が私であったため本当に意図が通じていたかは定かでない。帰り際に souvenir として絵はがきが欲しいという Dr. Dann と共におみやげを買い、ホテルへと戻った。帰りのタクシーの中で、彼らに感想を聞いたが、やはり“Unbelievable!!”ということであったが Dr. Dann の「もしヨーロッパにこんな施設があっても誰も行かないよ」という言葉や Dr. Pieper が「宮崎にはきれいなビーチがいっぱいあるのに何でこんなにつくったの」という言葉を考えると、わざわざ自然を破壊してこんなものを造るなんて“Unbelievable!!”ということなのかなとも考えた。

この日の夜は田島教授宅にての夕食会となった。

〈6月6日〉

宮崎入りした日から Dr. Engerhart が歯が痛いと言っていたためまずは歯科治療をお願いすることになった。神妙に椅子に座って治療を受けている Dr. Engerhart を他の3人はおもしろそうにのぞき込み、写真まで撮っていた。この日は大学で手術見学となっており、脊椎関節それぞれの手術を見学してもらった。人工関節手術でのクリーンルームのエアシャワーと術衣のヘルメットは珍しかったようだった。特に術衣とヘルメットを“like a Japanese NINJA”と言って盛り上がっていた。脊

椎の Ope では、なぜ後方からアプローチするのか、いや後方からでよいといった会話をしていた。

この日の夜は、さよならパーティーが焼き肉の独逸で行われた。堅苦しい雰囲気ではなく非常にくつろいだ会となり大いに会話が弾んでいたようだが、特に挨拶では大学院生で優秀と評判の S 先生が夜の会にも関わらず“Goten Taag”と挨拶するなどそれぞれの語学力を再認識する場ともなった。また、岩見婦長さんの、“This watch is made in Switzerland”という話の切り出しと相手の心をつかむ工夫にはみんな感心していた（ようだった?）。



Farwell Party 送別会(焼肉 独逸)

左から Dr. 村田 Dr. Engerhart Dr. 樋口  
Dr. Hinterman Dr. Pieper Dr. Dann  
前列 Dr. 福田

〈6月7日〉

空港へ彼らを送っていき、コーヒーを飲みながら話をしていたら、宮崎に来たときから“このまま家族のもとへと帰りたい、早く子どもの顔が見たい”と言っていた Dr. Hinterman が、“迷子になった振りをしてこのまま帰ろうか”といていたが羽田と成田が離れていることを知りがっかりしていた。

彼らは午前中の飛行機で東京へと発っていったが、色々とおもしろい経験をさせてもらった4日間であった。

〈後日談〉

これから10日後、弘前市での日本整形外科スポーツ医学会で、彼らと再会した。宮崎でも「ジョ

ギングするにはどこを走るのがいいか」と聞いていた彼らだが、学会のスポーツアクティビティーのジョギングでも Dr. Engerhart、Dr. Dann、Dr. Hinterman の3人、1-2-3 Finish を決めていた。弘前が今回の行程の最後とあって、非常に疲れてはいたがもうすぐ帰れるということで非常に嬉しそうにしていた。

今回、お互いが母国語でない英語で会話を行っ

たためどうにか会話が通じ合ったと思うが、英語にせよ日本語にせよドイツ語にせよ言葉はコミュニケーションの道具であり心を伝えあうものだとすることを改めて実感した4日間であった。(4人とはスポーツとくにサッカーの話が共通の話題となることが多く、これは会話の上でラッキーであった。)



## 「宮崎医大整形外科野球部の夏」

黒木浩史

第37回西日本整形外科親善野球大会は、8月7日、鳥取県米子市において開催されました。今年例年になく猛暑で、早朝に行われた試合にもかかわらず大変暑い中での試合となりました。

一軍の一回戦の相手は熊本大学でした。我が宮崎医大は、一回表、相手のミスもあり1点を先取しました。しかし4回裏、熊本大学に連続ヒットが出、2点を取られ逆転をきしてしまいました。その後我々は度々チャンスを迎えましたが決定打がでず、結局試合は2対1で熊本大学の勝利となりました。昨年度準優勝チームの一回戦敗退でした。

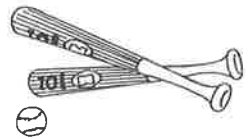
一方、二軍は一回戦を長崎大学と戦い、13対3で大勝しました。この試合で田島先生も2番セカンドで先発され、攻撃において二盗三盗と連続盗塁を決め、若さをアピールされました。二回戦は、一回戦不戦勝の久留米大学で、一回表に相手が9点を先取すればこちらはその裏に10点を取り逆転するというように激しい点の取り合いとなりました。しかし最後には相手の攻撃力が上回り16対10で敗北し、宮崎医大整形外科野球部の短い夏が終

わりました。

当教室において、野球は、診療・研究・教育の3本柱に続く4本目の柱です。野球部員は2月より毎週火土朝6時半より練習を行ってきました。今年人事の関係もあり参加人数平均5、6人の中での練習でした。はっきり言って自分も練習は面倒臭く、何で野球如きにこんなに苦勞するのとも思いました。しかしいざ試合に負けると非常に悔しいものです。たかが野球とお思いの方も多い事でしょうが、今後の練習に工夫を凝らし技術面のみならず精神面の向上を計り、一度くらい優勝して感激の涙を流してみたいと思います。

野球部員は何かと皆様には御迷惑をお懸けしている事と思いますが、選手も教室の代表として一生懸命がんばっております。今後共温かい御理解と御協力を宜しくお願い致します。

最後になりましたが、野球の練習や遠征に快く選手をお送り頂きました各関連病院の先生方、および御支援を賜りました同門の先生方に、紙面をお借り致しまして心より御礼申し上げます。



## 理想的な臨床医をめざして

県立日南病院 長鶴 義隆・黒田 宏・矢野 浩明

皆、医師をめざした理由は種々様々であろうが、医師として生活を送っている現在、果たして自分が理想的な臨床医であるかどうか、ふと自己反省の念にかられることがよくある。このよい機会に、理想的な臨床医について我々なりに考えてみた。

まずは病める人を助けてあげたいという優しい心がなくてはならないかと思う。今、学生時代ある講義でよく耳にした言葉を思い出した。『優れた人は優しい人』『優の意味は人の憂いのわかる人』という言葉である。結局は、患者を自分の家族と同様に思って最善の治療を施す熱意と、その実践するその姿勢こそが理想的な姿ではないかと思う。

しかし思うだけなら誰にでもできそうである。これから先、医師としての責務は益々過大となり、それだけにまたやりがいもある。医学は日々進歩し、めざましい発展を遂げている。そういう進歩

についてゆけずややもするとこんな田舎だから、というあきらめめいた安易な気持ちになることもある。しかしあきらめずに常に一番優れた治療を施す努力とその信念を持ち続け、最高の医療を実行することが理想ではあるが、最終的には患者側から治療の真価を問われ正しく評価されて、医療上の正解が下される。医療に関するあきらめは絶望的で悲惨な結果でしかなく、患者に明るい幸せな将来を可能にする事すらない医師側の墮落と怠慢を意味するものである。

自らの反省も込めてとりとめもないことを思いのまま書いてきたが、理想的な臨床医への道のりはまだまだ遠く、絶え間ない努力と熱意、更に不屈の精神こそが医療に対するその必要条件となるのではないかと思われる。そんな臨床医をめざし現在奮闘中の3人である。



## 結婚後の近況報告

末 永 治

田島教授御夫妻、及び皆様のおかげで、本年7月10日無事結婚式を挙げることができました。本当に有難うございました。

この度、「結婚後の近況報告」というテーマをいただき、さて何を書いたらいいものかといういろいろ考えてみました。私の周りの人は「えっ、末永が結婚できたの?」と感じたかもしれません。私も同感です。こども療育センター勤務において一番の収穫だったのかしら。

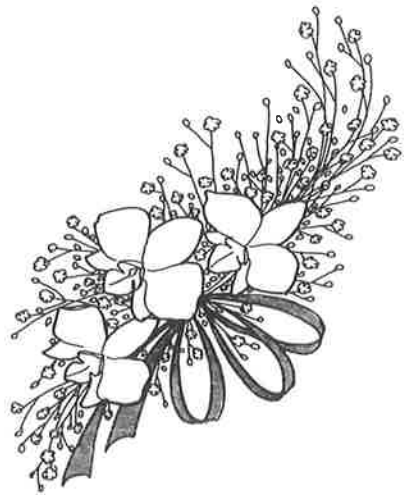
諸塚村の生活において、結婚して良かったということが多々感じられます。帰宅しても部屋は汚なく、洗たく物もたまる一方という生活から解放され、何よりも話相手のいることが一番有難いも

のです。

6月いっぱいまで内科の先生が変わり、隣に7ヶ月の坊やのいる先生が引っ越されてきました。妻は隣の奥さんと親しくなり、話相手ができたととても喜んでます。

諸塚村は大変住みやすく良い所ですが、何分小さな山村です。病院の方は特に変わりありませんが、もっと研修をつまないとどんどんと残されていくような不安にかられることがあります。

自覚を新たにし、努力していきたいと思いますので、今後ともよろしく御指導、おつきあいください。よろしくお願いします。



## 火の国便り

関本朝久

熊本に来て早いもので、3ヶ月が過ぎました。7、8月の熊本は息がでないくらい暑く、宮崎の方が過ごしやすい程でしたが、10月になり急に朝夕が肌寒くなってきました。宮崎が少しだけ懐しく思われます。今回は、熊大遺伝発生研究施設での近況を報告します。

今所属している発生遺伝部門の教室員は留学者を含めて25名程（ほとんどが男）で、遺伝研全体では、100名をこえています。全国各地の大学の医学部、理学部、病院、研究所等から、研究員、大学院生が、山村研一教授のもとに研究に来ています。ここでは、熊本出身者が数名しかおらず、あまり熊本弁を聞くことがありません。現在医学部の大学院1年生は3名で、指導して下さる方のもとで試行錯誤実験を行っています。雰囲気はとても良い所です。

遺伝研の場所は、熊本の下通りから、ちゃりて10分程の所にあり、いろいろと、大変便利が良く、実験が早く終りそうな時は、同期の大学院生と飲みに行ったりしています。宮崎と比べると大都会で、きれいな人が多い様な気がします。馬さしはおいしいと思います。

熊本に来た最初は、実験機、器具、試薬等すべてそろえていただいたにもかかわらず、分子生物学について全く何もわからず、本当にゼロからの出発でした。指導者もあきれていたのではないかと思います。周囲の会話の専門用語がわからず、世間話の時だけ内容がわかるといった感じでした。

(今でもカンファレンスの内容はわかりません。)

まずは、びんの洗い方、マウスの世話等を少しづつ教えていただき、3ヶ月を過ぎた今では、当初では考えられない程様々な実験手段を教えていただきました。現在は、gene trap法により単離された未知遺伝子の解析を行っている研究グループの中で勉強させていただいております。しかし内容はよく理解できていません。今は、ただ日々の課題を一つずつ確かなものにしていこうと努力しています。

実験は、いつも予想される結果と違うことばかりで、なかなかうまくいかず、延々と続くこともあり、指導して下さる先生にいつも迷惑ばかりかけている次第です。

これから熊本での生活が長くなりそうですが、こちらでも野球チームがあり、練習、試合はやっていますので、来年の野球大会は呼んで下さい。それでは、またいつか。



医局旅行に参加して…  
(右から3番目が関本です)



## 日の沈む国より

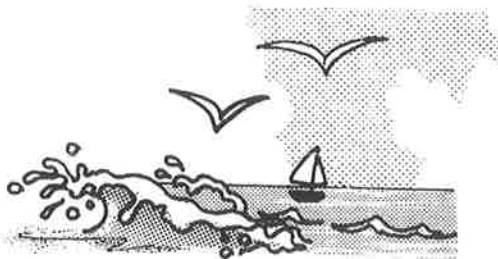
渡部正一

天草に赴任して、はや3ヶ月が過ぎた…。波音のない内海の風景も、買物に2つ隣町までの道程も、そろそろ新鮮味の無くなった頃か…。天草というと誰もがまず思い付くのは、五橋・隠れキリシタン・新鮮な海産物といったところだろう。しかしこれ迄自分はそれ程強烈な個性を感じたことはなかった。暑かった夏はいつの間にか駆け足で通り過ぎ、島にはやや肌寒い秋が訪れた。閑散とした漁村には不似合いにも見える6階建てのビルディングは、いつもと変わらず対岸に向かいその存在をアピールしている。この地は以前大水害にみまわれ大勢の人命が奪われたと聞いた。旧病院の建物も立派であるが、その流れた土砂の上に立つこの新館にも、地元の人達の並々ならぬ意気込みが感じられる…。

この間、ふと天草下島まで足を延ばした…。ここが本当に島なのかという感じの山波をぬっていると、小さな温泉町に出た。やはり温泉宿という

のはこんなひなびた感じがいいなと思いつつ海岸へ出た。するとそこには、向こう岸の見えない波立つ大海原が広がっていた。西海岸の夕焼けを見ると必ず言葉を失うと話には聞いていたが、自分は既に日の沈まないうちから絶句した。太陽の下でキラキラと輝く水平線は、宮崎の夏の海のように誘惑的ではないが、どこか落ち着いた何か悟ったような雰囲気充斥着いた。その昔十字架を手に戦った人々の気持ちに、ちょっと近付いた気がした…。

当地においては自分も非力なりに外来・病棟診療の一端を担わせていただいているが、毎日新鮮な発見があり、また解決すべき問題も色々出てきて大変充実した日々を送らせていただいている。島の人々も大変親切で、逆にこちらが恐縮してしまうことが多い。この島に居る間、出来る限り色々なことに挑戦し、また学んでいきたいと思う。



## 県立宮崎病院研修状況

後 藤 啓 輔

県立宮崎病院に来てから、もう？、やっと？、5ヵ月目になりました。はじめの2ヵ月間は、県病院のシステムが判らず戸惑っていましたが、その後だんだん慣れてきて何とか大きなポカをせずに過ごしております。

整形外科は、部長の小林先生をはじめ、Dr 徳久、Dr 高妻、Dr 佐本、Dr 松本、Dr 山田、Dr 浜崎、Dr 井手、Dr 東と、私の合計10人で、構成されています。ベットは、6回西を中心に約80床ほどあり、常時満床状態です。外来は、月曜から金曜まで毎日あり、手術日は、火・木・金で、1日の手術は、麻酔科依頼が3例、当科麻酔が約3例ほどです。

手術症例も色々あり、歯突起骨折（螺子固定）、

頸椎前方固定、胸椎硬膜内髄外腫瘍、腰椎変性滑りで pedicle screw、顕微鏡下ラブ、白蓋回転骨切り術（RAO）、THR、人工骨頭、大腿骨横止め髄内釘、HTO、キーンバック契状骨切り、肩関節人工腱板、膝鏡視下手術、指の再接着術、関節内骨折（足関節、肘関節 etc）等に、付かせて頂きとても勉強になっております。

また、小林先生には、大変よくして頂き主に脊椎の患者を中心に、直接色々ご教示頂きとても有意義に過ごしております。

以上、県病院の研修状況の報告終わります。

最後に、関連病院の数が増え、大学も大変と伺っておりますが、頑張ってください。



## 県立延岡病院研修状況

川 添 浩 史

今年6月。次期赴任の挨拶のために延岡を訪れました。17年前に延岡に住んでいたころの古い記憶と、地図を頼りに県病院を探しますがなかなか見付かりませんでした。するととても古くてステキな建物がありました。まさかあれじゃないよな。と、思いながら行って見ると、それでした。官舎に案内されると、やっぱり古かったです。ゴキブリはいっぱい居るし、部屋が傾いているためタンスはがたがたいうし、部屋は一階で外もいい天気なのに寝室にだけ大雨が降ってくるがありますが、部屋は広いし周りは静かだし、居心地は結構いいものです。

延岡に来てはや3ヶ月が過ぎようとしています。外見の古さとは裏腹に中は非常に充実しています。県北の中核病院として機能しており、外傷からOAなどの慢性疾患まで、さらには脊椎疾患もと、様々なことを経験でき非常に勉強になっています。月、水、金の午後が手術ですが、手術の必要な急

患は、ほとんどここに運ばれてくるため緊急手術もかなりあり、平均すれば週に10件前後の手術があります。

自分の仕事は、ほとんどの急患の対応と、病棟、そして退院した患者の follow up のための週一回の外来です。手術の件数も多く、入院患者の数も多いため忙しいのですが、何をするゆとりも無い、という事はなく、受持っている患者や自分のついた手術の事を振り返る時間があるためとてもためになっています。又、心強いのは、同じ研修医がいることと、3年目の年の近い Dr. がいることで、いろいろな場面で助け合いながらやっています。とにかく色々な疾患が見れる所ですので、一つ一つをしっかりと見て、自分の身につけ、残り9ヶ月、充実した研修を送りたいと思っています。ここでの研修が終わった時、一年前の自分よりも一回り大きな医者になっていたらと、くれぐれも見掛けだけが一回り大きくならないよう・・・



## 新入医局員自己紹介 (順不同)



氏名 村田 潔  
生年月日 昭和34年7月14日生  
出身高校 日向学院高等学校  
出身大学 北里大学  
血液型 B 型

本年4月より、宮崎医科大学整形外科田島教室のお世話になっております村田と申します。私は、昭和63年神奈川県北里大学整形外科へ入局し、山本真教授の御指導のもと、6年間整形外科一般を研修してまいりました。その間、横浜、鎌倉、沖縄、相模湖等の、色々な病院へ出向し、十数年ぶりに、故郷の宮崎へ帰ってまいりましたが、高校時代に私がすごした宮崎とは、大きく変化しており、多少の戸惑いを覚えておりました。帰郷して半年もたつと、土地勘ももどってきて、時折、霧島や、えびの高原方面へ、ドライブしつつ温泉などに立ち寄り、久々の故郷の自然を、満喫しています。

私の一番の楽しみは、旅行をする事にありまして、寺社仏閣や、温泉を巡ったり、世界の色々な海でスキューバダイビングをする事に熱中しているのですが、こういう放浪癖のおかげかどうかはわかりませんが、今だに独身と言う憂目<sup>うれめ</sup>に会っております。これからは整形外科の研修研鑽と併せ、独身生活への決別と言う、2つの目標に向って猛進する決意であります。

今後、諸先生方々より、御指導、御鞭撻いただければ幸いと存じます。これからもよろしく願いいたします。



氏名 山本 恵太郎  
生年月日 昭和41年10月18日生  
出身高校 広島県立五日市高等学校  
出身大学 宮崎医科大学  
血液型 O 型

広島県立五日市高校、宮崎医科大学を卒業し、今年入局させていただきました。小学生の時は野球肘、高校生の時はギックリ腰、大学時はサッカー部に在籍した為にケガが多く、関節造影やギプス固定等、事あるごとに整形外科にお世話になりました。その為か整形外科には大変興味があり、いつの間にか志していました。

入局してから数ヶ月間、想像以上に覚える事・する事の多さに、病棟や手術場でただただ右往左往している日々を送っています。志とはほど遠く、諸先生方や看護婦さん達に御迷惑ばかりかけ自分の未熟さを痛感しています。又、今年入局したフレッシュマンは一人の為不安やプレッシャーもありますが、幸い医局をはじめ、全ての方々に親切にしてもらっています。

今後はこの好意に少しづつでもこたえられる様つとめていきます。同門会の先生方、今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

# 教室同門の研究業績

(1993. 1月～1993. 12月までの分)

※巻末に過去未掲載の分あり

## ◆著 書

- 1 第3章 特殊な治療法 1. 星状神経節ブロック, 2. 局所のブロックを含めた外来治療でのブロック療法, 3. 頸部硬膜外ブロック

田島 直也 黒木 俊政

脊椎疾患保存療法 原田征行 酒匂崇編集, P 141-149,

金原出版, 東京, 1993

- 2 III腰痛 C. 椎間板障害

黒木 俊政 田島 直也

スポーツ外傷・障害のMRI診断 高澤晴夫 原田征行編著 P 60-66

文光堂, 東京, 1993

- 3 IX 大腿A. 血腫

桑原 茂 谷口 博信 田島 直也

スポーツ外傷・障害のMRI診断 高澤晴夫 原田征行編著

P 194-197, 文光堂, 東京, 1993

- 4 術後疼痛に対するブロック療法

田島 直也 黒木俊政

私のすすめる整形外科治療法 (整形外科 MOOK 増刊-2 B)

P 202-205, 金原出版, 東京, 1993

- 5 田島式 3-S Instrumentation 手術術式と適応

田島 直也 桑原 茂

私のすすめる整形外科治療法 (整形外科 MOOK 増刊-2 C)

P 103-106, 金原出版, 東京, 1993

- 6 腰痛 (慢性的腰痛)

田島 直也

信頼できる腰痛の先生 腰痛に悩む仲間の会編, P 132-135

勁文社文庫, 東京, 1993

7 股関節症に対する寛骨臼球状骨切り術

長鶴 義隆

私のすすめる整形外科治療法 (整形外科 MOOK 増刊-2 E),  
P 63-69, 金原出版, 東京, 1993

◆原著および論文

1 DL-lysine-acetylsalicylate 関節内注入療法の臨床成績

桑原 茂 税所幸一郎 谷口 博信 田島 直也  
関節の外科 20 (1) : 13-16, 1993

2 簡易骨折器による内固定を必要としない実験的骨折モデル

谷口 博信 桑原 茂 田島 直也  
整形外科と災害外科 42 (1) : 1-5, 1993

3 頸部脊柱管拡大術の経験

鳥取部光司 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
松本 宏一  
整形外科と災害外科 42 (1) : 87-91, 1993

4 宮崎県におけるスポーツ傷害について-医療機関へのアンケート調査を中心に-

尾田 朋樹 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
整形外科と災害外科 42 (1) : 291-295, 1993

5 股関節臼蓋前方部の三次元的被覆度の検討

帖佐 悦男 田島 直也 長鶴 義隆  
整形外科と災害外科 42 (1) : 328-331, 1993

6 RA 下位頸椎不安定症における脊髄障害発生の危険因子について-単純 X 線および MRI 所見と病理所見の対比による検討

谷口 博信 桑原 茂 田島 直也  
日本脊椎外科学会雑誌 4 (1) : 101, 1993

7 腰痛症に対する骨盤ベルト

柏木 輝行 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一  
平川 俊一  
理学診療 4 (1) : 86-90, 1993

- 8 腰椎分離すべり症に対する後側方固定術  
松本 宏一 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
西日本脊椎研究会誌 19 (1) : 57-60, 1993
- 9 慢性関節リウマチと腎障害  
税所幸一郎 木村 千仞 郡山 和夫 桑原 茂  
田島 直也  
九州リウマチ 12 : 164-168, 1993
- 10 宮崎における側彎症検診の検討 (第2報)  
田島 直也  
事業年報 (財) 宮崎県予防医学協会 平成3年度 P119-132, 1993
- 11 リウマチ膝に対するセメント非使用人工関節置換術の経験  
税所幸一郎 津曲 孝康 尾田 朋樹 木村 千仞  
桑原 茂 伊勢 紘平 田島 直也  
整形外科と災害外科42 (2) : 861-865, 1993
- 12 Surgery of the Rheumatoid Foot.  
Chihiro Kimura Naoya Tajima Haruaki Takeuchi  
Shigeru Kuwahara Koichiro Saisho  
Kyushu J.Rheumatol 12 suppl : 9-16, 1993
- 13 高校女子長距離選手の経時的変化  
獅子目賢一郎 田島 直也 平川 俊一 黒木 俊政  
九州スポーツ医学会誌 5 : 55-58, 1993
- 14 RA 腰椎病変の経時的変化と手術の適応  
黒田 宏 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
松本 宏一 久保田紳一郎  
西日本脊椎研究会誌 19 (2) : 222-224, 1993
- 15 RA 上位頸椎手術例の長期成績  
谷口 博信 桑原 茂 伊勢 紘平 田島 直也  
西日本脊椎研究会誌 19 (2) : 260-263, 1993



- 16 持久性トレーニングによるラット筋肉中酵素の動態変化  
黒木 俊政 田島 直也  
日本整形外科学会雑誌 67 (2) : S91, 1993
- 17 RA 下肢関節機能再建術の評価試案  
谷口 博信 桑原 茂 伊勢 紘平 田島 直也  
整形外科と災害外科 42 (3) : 958-962, 1993
- 18 三次元有限要素法による腰椎の応力解析 (第2報: 椎間板)  
鳥取部光司 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
松本 宏一 帖佐 悦男  
整形外科と災害外科 42 (3) : 1087-1091, 1993
- 19 Treatment of Femoral Neck Fractures in Rheumatoid Arthritis  
Koichiro Saisho Shigeru Kuwahara Naoya Tajima  
日本関節外科学会誌 12 (3) : 235-240, 1993
- 20 高校生ボクシング選手に見られたスポーツ障害  
獅子目賢一郎 田島 直也 平川 俊一 黒木 俊政  
臨床スポーツ医学 10 (別冊) : 327-328, 1993
- 21 青壮年のスポーツ傷害について  
平川 俊一 田島 直也 桑原 茂  
臨床スポーツ医学 10 (別冊) : 337-338, 1993
- 22 特発性側弯症における平衡機能の解析  
樋口 潤一 田島 直也 平川 俊一 佐藤 謙助  
整形外科と災害外科 42 (4) : 1487-1489, 1993
- 23 脊髄損傷患者における神経再建術の基礎的研究  
田島 直也  
(財) 中村裕記念身体障害者福祉財団 平成4年度助成・研究報告書  
P 55-59, 1993

- 24 Immunohistochemical Study of Chymopapain Injected into the Rabbit Intervertebral Disc Using Anti-chymopapain Antibody  
 Masaru Toda Naoya Tajima Eiji IshiKawa Seiichi Hashida  
 日本整形外科学会雑誌 67 (4) : 230-239, 1993
- 25 Correction of Scoliosis with Shape-memory Alloy  
 Koichi Matsumoto Naoya Tajima Shigeru Kuwahara  
 日本整形外科学会雑誌 67 (4) : 267-274, 1993
- 26 持久性運動による酵素変化  
 黒木 俊政 田島 直也  
 Sportsmedicine Quarterly 12 : 115-118, 1993
- 27 高等学校陸上競技選手の血液性状および筋力について—平成元年度検査報告—  
 黒木 俊政 田島 直也 田辺 龍樹 黒木 龍二  
 園田 典生 中村真由美 日高 隆  
 '92みやざきスポーツ科学委員会研究報告書 : 30-33, 1993
- 28 高等学校陸上競技選手の血液性状および筋力について—平成2年度検査報告—  
 黒木 俊政 田島 直也 樋口 潤一 松元 征徳  
 中村真由美  
 '92みやざきスポーツ科学委員会研究報告書 : 34-38, 1993
- 29 人口材料によらない関節形成術—interposition arthroplasty と resection arthroplasty—  
 桑原 茂 田島 直也 谷口 博信  
 関節外科 12 (6) 増刊号 : 132-138, 1993
- 30 実業団柔道選手の腰部障害 (第3報)  
 黒木 俊政 田島 直也 伊勢 紘平 平川 俊一  
 押川紘一郎  
 日本整形外科学会スポーツ医学会雑誌 12 : 141-143, 1993

- 31 多施設臨床試験による変形性膝関節症に対する高分子ヒアルロン酸ナトリウム（アルツ）関節腔内投与の検討

武内 晴明 木村 千仞 田島 直也 税所幸一郎  
山口 一郎 森田 信二 川越 正一 帖佐 悦男  
前原 東洋 黒木 俊政 桑原 茂  
医学と薬学 29 (6) : 1517-1525, 1993

- 32 高校女子長距離選手の血液性状と競技力の関連について

獅子目賢一郎 田島 直也 平川 俊一 黒木 俊政  
整形・災害外科 36 : 1179-1185, 1993

- 33 寛骨臼球状骨切り術

長鶴 義隆  
骨・関節・靭帯 6 (7) : 789-798, 1993

- 34 大腿骨頭回り症の治療—画像診断による治療法の選択—

長鶴 義隆 立山 洋司 大田 博人  
Hip Joint 19 : 67-72, 1993

- 35 三次元有限要素法による腰椎の力学的検討

鳥取部光司 田島 直也 平川 俊一 田代 宏一  
帖佐 悦男  
日本整形外科学会雑誌 67 (8) : 1527, 1993

- 36 腰部椎間板ヘルニアの保存療法

桑原 茂 田島 直也  
MB orthopaedics 6 (9) 増刊号 : 39-44, 1993

- 37 全国高等学校総合体育大会ボクシング競技の医事関係について

獅子目賢一郎 山口 守 田島 直也 樋口 潤一  
松元 征徳  
臨床スポーツ医学 10 (10) : 1256-1260, 1993

## ◆症 例

### 1 上位頸髄損傷の一例

久保紳一郎 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一  
日本パラプレジア医学会誌 6 (1) : 118-119, 1993

### 2 尺骨神経管症候群の3例

松元 征徳 帖佐 悦男 戸田 勝 田島 直也  
中村 誠司  
整形外科と災害外科 42 (3) : 1206-1211, 1993

## ◆総 説

### 1 側弯症の治療—最近の話題—

田島 直也 福田 健二  
日本医事新報 3619 : 26-29, 1993

## ◆随 筆

### 1 国際学会に思う—どこまで通訳は必要か

田島 直也  
臨床整形外科 22 (7) : 769, 1993

## ◆講 演

### 1 RAの脊椎病変について

田島 直也  
第84回北海道整形外科学会, 1993, 1, 札幌

### 2 整形外科領域におけるスポーツ外傷と障害について

田島 直也  
平成5年度山之内町スポーツ指導者研究会, 1993, 5, 山之内

### 3 頸椎症とその周辺疾患

田島 直也  
西諸内科医学会学術講演会, 1993, 6, 小林

- 4 フィンランドにおけるリウマチ治療  
税所幸一郎  
日本リウマチ友の会宮崎支部総会, 1993, 7, 宮崎
- 5 “腰痛対策”について  
田島 直也  
平成5年度宮崎医科大学白菊会総会, 1993, 8, 宮崎
- 6 スポーツ医学の現況  
黒木 俊政  
平成5年度宮崎県放射線技師会夏期学会, 1993, 9, 日南
- 7 高校生スポーツ障害の問題点  
獅子目賢一郎  
福島医大整形外科教室勉強会, 1993, 9, 福島
- 8 中・高年のスポーツ障害  
田島 直也  
第10回東海地区整形外科教育研修会, 1993, 10, 宮崎
- 9 脊椎のスポーツ外傷と障害  
田島 直也  
第6回横浜整形外科教育研修会1993, 10, 横浜
- 10 整形外科領域におけるスポーツ障害  
田島 直也  
平成5年度東諸県郡学校保健会合同研究会1993, 10, 国富
- 11 股関節症の病態と治療—寛骨臼球状骨切り術 (SAO) を中心に—  
長鶴 義隆  
第10回宮崎県臨床整形外科医会1993, 10, 宮崎
- 12 ドイツ・オーストリア・スイスのスポーツ整形外科事情— GOTS — JOSSM — KOSSM Fellow として  
黒木 俊政  
宮崎県医師会スポーツドクター懇談会, 1993, 11, 宮崎

13 リハ医学に関する卒前教育－国立大学の場合－

田島 直也

第2回大学病院リハビリテーションセンター連絡協議会ワークショップ  
1993, 11, 宮崎

14 腰部脊柱管狭窄症

田島 直也

ミドリ十字KK研究会, 1993, 12, 福岡

◆学会報告

1 宮崎医科大学整形外科スポーツ外来の現況

樋口 潤一 田島 直也 平川 俊一 帖佐 悦男

黒木 俊政 中村真由美 日高 隆

第10回宮崎県スポーツ医学研究会, 1993, 2, 宮崎

2 宮崎県高校女子運動選手の身体特性

山口政一朗 田島 直也 平川 俊一 帖佐 悦男

樋口 潤一 坂本 武郎 渡辺 信二 渡部 正一

中村真由美 日高 隆

第10回宮崎県スポーツ医学研究所, 1993, 2, 宮崎

3 高校女子長距離選手の血液性状と競技パフォーマンスの関連について

獅子目賢一郎 黒木 俊政

第10回宮崎県スポーツ医学研究会, 1993, 2, 宮崎

4 持久性運動による Creatine Kinase の変動 (第2報)－動物実験モデルを用いて－

黒木 俊政 田島 直也 桑原 茂 福田 健二

第10回宮崎県スポーツ医学研究会, 1993, 2, 宮崎

5 大腿骨頸部骨折の準救急的側面

川越 正一 永井 孝文 末永 治 田島 直也

矢野 浩明

第1回宮崎救急医学会, 1993, 2, 宮崎

- 6 当科における脊髄損傷患者について—初期治療を中心に—  
矢野 浩明 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
福田 健二 帖佐 悦男  
第1回宮崎救急医学会, 1993, 2, 宮崎
- 7 Cathepsine Lによる化学的髓核融解術についての基礎的研究  
久保紳一郎 福田 健二 谷口 博信 桑原 茂  
田島 直也 伊勢 紘平  
第5回日本経皮的椎間板摘出術研究会, 1993, 3, 鹿児島
- 8 Lumbar Injuries in Judo Athletes.  
J.Higuchi,MD T.Kuroki,MD S.Hirakawa,MD N.Tajima,MD  
Second AOSSM/JOSSM Trans-Pacific Meeting, March, 1993, Hawaii
- 9 Analysis of Overuse Injuries in the Athletes.  
S.Kuwahara,MD N.Tajima,MD  
Second AOSSM/JOSSM Trans-Pacific Meeting, March, 1993, Hawaii
- 10 股関節症に対する寛骨臼球状骨切り術(SAO)の合併手術の検討  
長鶴 義隆 立山 洋司 大田 博人  
第66回日本整形外科学会学術集会, 1993, 4, 神戸
- 11 持久性トレーニングによるラット筋肉中酵素の動態変化  
黒木 俊政 田島 直也  
第66回日本整形外科学会学術集会, 1993, 4, 神戸
- 12 A clinico-pathological study on rheumatoid arthritis of the spine.  
Naoya Tajima  
The 3rd Sino-Japanese Symposium on Orthopaedic Surgery,  
1993, 5, 中華民国
- 13 自己血輸血とエリスロポエチンについて—投与基準と合併症—  
帖佐 悦男 田島 直也 樋口 潤一 荒木 康彦  
長鶴 義隆  
第6回自己血輸血研究会, 1993, 5, 東京

- 14 RA 下位頸椎不安定症における脊髄障害発生の危険因子について—単純 X 線および MRI 所見と病理所見の対比による検討—  
谷口 博信 桑原 茂 田島 直也  
第22回日本脊椎外科学会, 1993, 6, 富山
- 15 Cathepsin-L を用いた chemonucleolysis の検討  
福田 健二 久保紳一郎 谷口 博信 桑原 茂  
田島 直也 伊勢 紘平 勝沼 信彦  
第22回日本脊椎外科学会, 1993, 6, 富山
- 16 RA 股関節における中心性脱臼の成因について—第3報—  
谷口 博信 麻生 邦典 桑原 茂 田島 直也  
第85回西日本整形・災害外科学会, 1993, 6, 久留米
- 17 股関節における三次元的被覆度と応力解析  
帖佐 悦男 田島 直也 鳥取部光司 坂本 武郎  
長鶴 義隆  
第85回西日本整形・災害外科学会, 1993, 6, 久留米
- 18 三次元有限要素法による腰椎の応力解析 (関節突起間部を 3D-CT 像と比較して)  
坂本 武郎 田島 直也 平川 俊一 田代 宏一  
帖佐 悦男 鳥取部光司  
第85回西日本整形・災害外科学会, 1993, 6, 久留米
- 19 三次元有限要素法による腰椎の応力解析 (第三報: 椎間関節)  
鳥取部光司 田島 直也 平川 俊一 田代 宏一  
帖佐 悦男  
第85回西日本整形・災害外科学会, 1993, 6, 久留米
- 20 腰椎疾患に対する下肢知覚神経活動電位の臨床的意義について (第一報)  
松元 征徳 田島 直也 中村 誠司  
第85回西日本整形・災害外科学会, 1993, 6, 久留米
- 21 手掌部刺激による正中神経の transcarpal conduction velocity について  
中村 誠司 田島 直也 松元 征徳  
第85回西日本整形・災害外科学会, 1993, 6, 久留米



22 DXA を用いた RA 群と非 RA 群の骨粗鬆症の検討

渡部 正一 田島 直也 桑原 茂 帖佐 悦男  
谷口 博信 麻生 邦典  
第85回西日本整形・災害外科学会, 1993, 6, 久留米

23 実業団柔道選手の膝障害—膝伸展・屈曲最大筋力について—

樋口 潤一 田島 直也 黒木 俊政 田辺 龍樹  
園田 典生 松元 征徳  
第85回西日本整形・災害外科学会, 1993, 6, 久留米

24 ペルテス病に対する保存的治療の検討

大田 博人 長鶴 義隆 立山 洋司  
第85回西日本整形・災害外科学会, 1993, 6, 久留米

25 RA 頰椎に対する保存療法の限界

谷口 博信 桑原 茂 福田 健二 田島 直也  
第39回西日本脊椎研究会, 1993, 6, 福岡

26 プロサイリンの整形外科領域における使用経験

帖佐 悦男 田島 直也 植村 貞仁 飯干 明  
三股 恒夫 黒木 浩史 戸田 勝 金井 純次  
作 良彦 後藤 啓輔  
第2回宮崎プロスタグランジン研究会学術講演会, 1993, 6, 宮崎

27 捻れによる後骨間神経麻痺を呈した一例

本部 浩一 田島 直也 平川 俊一 帖佐 悦男  
松元 征徳 戸田 勝  
第26回宮崎整形外科懇話会, 1993, 6, 宮崎

28 色素性絨毛結節性滑膜炎 (pigmented villonodular synovitis) の2例

坂本 武郎 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
帖佐 悦男 谷口 博信  
第26回宮崎整形外科懇話会, 1993, 6, 宮崎

- 29 第3, 4胸椎脱臼骨折後, 脊髓損傷をまぬがれた一症例  
 渡辺 信二 鳥取部光司 福田 健二 平川 俊一  
 田島 直也  
 第26回宮崎整形外科懇話会, 1993, 6, 宮崎
- 30 当科における経皮的椎間板摘出術の検討  
 矢野 浩明 田島 直也 平川 俊一 福田 健二  
 久保紳一郎  
 第26回宮崎整形外科懇話会, 1993, 6, 宮崎
- 31 RAにおける椎間板のMRI  
 吉田好志郎 谷口 博信 桑原 茂 田島 直也  
 第26回宮崎整形外科懇話会, 1993, 6, 宮崎
- 32 DXAを用いたRAの骨粗鬆症の検討  
 渡部 正一 田島 直也 桑原 茂 黒木 俊政  
 帖佐 悦男 谷口 博信  
 第26回宮崎整形外科懇話会, 1993, 6, 宮崎
- 33 脛骨粗面裂離骨折の2例  
 松岡 知己 永田 高見 谷脇 功一 木屋 博昭  
 弓削 孝雄 藤本 徹 大江浩一郎  
 第26回宮崎整形外科懇話会, 1993, 6, 宮崎
- 34 考案した枕を頸椎疾患に使用した小経験  
 平部 久彬  
 第26回宮崎整形外科懇話会, 1993, 6, 宮崎
- 35 足根管症候群の手術症例について  
 獅子目賢一郎  
 第26回宮崎整形外科懇話会, 1993, 6, 宮崎
- 36 当科における経皮的椎間板摘出術の検討  
 矢野 浩明 田島 直也 平川 俊一 福田 健二  
 久保紳一郎  
 第4回宮崎県脊椎脊髄研究会, 1993, 7, 宮崎

- 37 実業団柔道選手の腰部障害  
樋口 潤一 田島 直也 平川 俊一 黒木 俊政  
帖佐 悦男 押川紘一郎  
第19回日本整形外科学スポーツ医学会, 1993, 7, 宮崎
- 38 柔道選手, 長距離陸上選手の腰部障害  
黒木 俊政 田島 直也  
第19回日本整形外科学スポーツ医学会, 1993, 7, 宮崎
- 39 A Historogioal Study of Calcium Pyrophosphate Dihydrate(cppd)Crystal Deposition in Ligamentum Flavum.  
T.ohira K.Ise S.Kuwahara N.Tajima  
X VIII th ILAR Congress of Rheumatology, July, 1993 , Spain.
- 40 当科における開放骨折の現状  
永井 孝文 川越 正一 山口政一朗 田島 直也  
第2回宮崎救急医学会, 1993, 8, 都城
- 41 Lumbar Injury of Judo Athletes.  
T.Kuroki  
Burgenlandische Sportarztetage, 1993 ,6 Austria.
- 42 Lumbar Injury of Judo Athletes.  
T.Kuroki  
Deutsch-Osterreichisch-Schweizerischer Orthopadie-Kongreß ,  
1993 ,6-7,Munchen.
- 43 Local Mastocytosis in Fracture Healing.  
H.Taniguchi,M.D. S.Kuwahara,M.D. N.Tajima,M.D.  
The 6th SIROT, 1993 ,8,SEOUL
- 44 The Study on Chemonucleolysis by Means of Cathepsin-L.  
K.Fukuda,M.D. H.Taniguchi,M.D. S.Kuwahara,M.D.  
K.Ise,M.D. S.TanaKa,M.D. N.Tajima,M.D.  
The 6th SIROT , 1993, 8, SEOUL

- 45 Gravity Sway in Idiopathic Scoliosis.  
 S.Hirakawa,M.D. N.Tajima,M.D. S.Kuwahara,M.D.  
 J.Higuchi,M.D.  
 The 6th SIROT , 1993, 8, SEOUL
- 46 The Application of the 3-S Instrumentation System for Lumbar Spinal Fusion.  
 N.Tajima,M.D. S.Kuwahara,M.D. K.Matsumoto,M.D.  
 K.Fukuda,M.D.  
 The 19th SICOT , 1993, 8 - 9, SEOUL
- 47 The Application of Reflectance Spectrophotometry to the Circulatory Condition of the Lower Extremities  
 on the Lumbar Spinal Canal Stenosis.  
 E.Chosa,M.D. N.Tajima,M.D.  
 The 19th SICOT , 1993, 8 - 9, SEOUL
- 48 Posterior Fusion of the Upper Cervical Spine in Rheumatoid Arthritis.  
 S.Kuwahara,M.D. N.Tajima,M.D. T.Sugano,M.D.  
 The 19th SICOT , 1993, 8 - 9, SEOUL
- 49 Assesment of Acetabular Coverage of the Femoral Head.  
 E.Chosa,M.D. N.Tajima,M.D. Y.Nagatsuru,M.D.  
 The 19th SICOT , 1993, 8 - 9, SEOUL
- 50 Comparison of Noncemented versus Cemented Kinemax Knee Arthroplasty in Rheumatoid Arthritis.  
 K.Saisho,M.D. S.Kuwahara,M.D. K.Ise,M.D. N.Tajima,M.D.  
 The 19th SICOT , 1993, 8 - 9, SEOUL
- 51 肘離断性骨軟骨炎の3例  
 田辺 龍樹 田島 直也 桑原 茂 戸田 勝  
 黒木 俊政 帖佐 悦男 樋口 潤一  
 第11回宮崎県スポーツ医学研究会, 1993, 9, 宮崎
- 52 立方骨症候群について  
 獅子目賢一郎 黒木 俊政 田島 直也  
 第11回宮崎県スポーツ医学研究会, 1993, 9, 宮崎

- 53 五ヶ瀬ハイランドスキー場におけるスキー外傷の実態 (第2報)  
園田 典生 吉川 成章 田島 直也 桑原 茂  
黒木 俊政 柳園賜一郎  
第11回宮崎県スポーツ医学研究会, 1993, 9, 宮崎
- 54 人工膝関節置換術後に膝蓋骨々折を生じた2症例  
税所幸一郎 坂本 康典 桑原 茂 田島 直也  
森田 信二  
第6回日本リウマチ学会九州. 沖縄支部学術講演会  
(第43回九州リウマチ研究会), 1993, 9, 久留米
- 55 RA 頸椎手術の一夫～軸椎歯突起頭蓋底陥入症に対する脊椎固定術について  
桑原 茂 谷口 博信 田島 直也  
第6回日本リウマチ学会九州. 沖縄支部学術講演会  
(第43回九州リウマチ研究会), 1993, 9, 久留米
- 56 RA 前足部変形に対する関節形成術の一工夫  
谷口 博信 桑原 茂 田島 直也  
第6回日本リウマチ学会九州. 沖縄支部学術講演会  
(第43回九州リウマチ研究会), 1993, 9, 久留米
- 57 人工膝関節置換術後の膝動揺性— RA 例について—  
渡辺 信二 桑原 茂 谷口 博信 田島 直也  
第8回宮崎県リウマチ研究会, 1993, 9, 宮崎
- 58 RA 患者の骨粗鬆症  
谷口 博信 渡辺 信二 桑原 茂 田島 直也  
第8回宮崎県リウマチ研究会, 1993, 9, 宮崎
- 59 慢性関節リウマチと上部消化管病変  
長田 浩伸 森田 信二 田辺 龍樹 作 良彦  
第8回宮崎県リウマチ研究会, 1993, 9, 宮崎
- 60 慢性関節リウマチとピロリン酸カルシウム (CPPD) 結晶沈着症の合併と思われる1例について  
大平 卓  
第8回宮崎県リウマチ研究会, 1993, 9, 宮崎

- 61 Cathepsin Lによる化学的髓核融解術についての基礎的検討  
 久保紳一郎 田島 直也 福田 健二 谷口 博信  
 伊勢 紘平 勝沼 信彦  
 第8回日本整形外科学会基礎学術集会, 1993, 10, 松本
- 62 三次元有限要素法による腰椎の力学的検討  
 鳥取部光司 田島 直也 平川 俊一 田代 宏一  
 帖佐 悦男  
 第8回日本整形外科学会基礎学術集会, 1993, 10, 松本
- 63 RAによる頸髄麻痺の病理学的検討  
 柳園賜一郎 桑原 茂 谷口 博信 田島 直也  
 第28回日本パラプレジア医学会, 1993, 10, 鹿児島
- 64 RA脊椎の骨粗鬆症に関する検討  
 松岡 知己 田島 直也 平川 俊一 田代 宏一  
 福田 健二 渡辺 信二  
 第40回西日本脊椎研究会, 1993, 10, 広島
- 65 RA頸椎後方固定術の限界  
 桑原 茂 田島 直也 谷口 博信 管野 卓郎  
 第21回日本リウマチ・関節外科学会, 1993, 10, 大阪
- 66 RAの晩期肘滑膜切除術について  
 税所幸一郎 坂本 康典 田島 直也 桑原 茂  
 第21回日本リウマチ・関節外科学会, 1993, 10, 大阪
- 67 脱臼性股関節症に対する寛骨臼球状骨切り術(SAO)の成績  
 長鶴 義隆 柏木 輝行 大田 博人 金井 一男  
 第20回日本股関節学会, 1993, 11, 岐阜
- 68 腰椎分離症の力学的検討(三次元有限要素法と3D-CTを用いて)  
 鳥取部光司 田島 直也 平川 俊一 田代 宏一  
 帖佐 悦男  
 第20回日本臨床バイオメカニクス学会, 1993, 11, 京都

- 69 宮崎県における側彎症学校検診の現状と評価  
 福田 健二 田島 直也 平川 俊一 田代 宏一  
 久保紳一郎 黒木 俊政  
 第27回日本側彎症研究会, 1993, 11, 千葉
- 70 腰椎変性疾患に対する 3-S インストルメンテーションの適応と限界  
 福田 健二 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
 田代 宏一 久保紳一郎  
 第2回日本脊椎インストルメンテーション研究会, 1993, 11, 東京
- 71 Chemonucleolysis におけるキモパインの至適濃度に関する基礎的検討  
 久保紳一郎 田島 直也 福田 健二 谷口 博信  
 第86回西日本整形・災害外科学会, 1993, 11, 熊本
- 72 当科における頸部脊柱管拡大術の術後成績  
 田辺 龍樹 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一  
 第86回西日本整形・災害外科学会, 1993, 11, 熊本
- 73 腰椎後側方固定術の各種画像による術後判定の検討  
 後藤 啓輔 田島 直也 平川 俊一 田代 宏一  
 福田 健二 久保紳一郎  
 第86回西日本整形・災害外科学会, 1993, 11, 熊本
- 74 RA 下肢多関節障害患者の歩行解析  
 浪平 辰州 田島 直也 桑原 茂 谷口 博信  
 第86回西日本整形・災害外科学会, 1993, 11, 熊本
- 75 overuse injury の原因解析  
 渡辺 信二 田島 直也 黒木 俊政 谷口 博信  
 園田 典生 樋口 潤一  
 第86回西日本整形・災害外科学会, 1993, 11, 熊本
- 76 脳性麻痺における股関節脱臼傾向の推移  
 末永 治 黒田 宏 山口 和正 岡本 義久  
 第86回西日本整形・災害外科学会, 1993, 11, 熊本

- 77 慢性関節リウマチと上部消化管病変  
長田 浩伸 森田 信二 田辺 龍樹 作 良彦  
第86回西日本整形・災害外科学会, 1993, 11, 熊本
- 78 腰痛治療に対する骨盤ベルトについて  
松元 征徳 田島 直也 平川 俊一 福田 健二  
第1回日本腰痛研究会, 1993, 11, 神戸
- 79 柔道選手の腰部障害—実業団選手と大学柔道選手の比較  
黒田 俊政 田島 直也 田辺 龍樹 松元 征徳  
樋口 潤一 平川 俊一 広橋 賢次  
第4回日本臨床スポーツ医学会, 1993, 11, 東京
- 80 運動実践市民の健康への関心度—市民ランナーアンケートによる検討—  
田代 学 田島 直也 獅子目賢一郎  
第4回日本臨床スポーツ医学会, 1993, 11, 東京
- 81 中高年のメディカルチェック—整形外科  
田島 直也 桑原 茂 黒木 俊政  
第4回日本臨床スポーツ医学会, 1993, 11, 東京
- 82 Segmental Square Spinal Instrumentation(3-S)For Spinal Canal Stenosis  
Naoya Tajima Shigeru Kuwahara Shunichi Hirakawa  
Kenji Fukuda Shinichiro Kubo  
The Fourth Japanese—Korean Combined Orthopaedic Symposium  
1993, 11, Nagasaki
- 83 座位姿勢による脊柱側彎の変化  
二宮 義和 山口 和正 川口 幸義  
第4回日本小児整形外科学会, 1993, 11, 東京
- 84 柔道選手のスポーツ障害・外傷と筋力  
黒木 俊政 田島 直也 樋口 潤一 園田 典生  
蛭原 啓文 川添 浩史  
第6九州スポーツ医・科学会, 1993, 12, 福岡



- 85 中・高年の脊椎のスポーツ障害—特に腰部について—  
田島 直也 黒木 俊政  
第6九州スポーツ医・科学会, 1993, 12, 福岡
- 86 多発性骨盤骨折を診断のきっかけとした Cushing 症候群の一例  
川添 浩史 立山 洋司 田島 直也 桑原 茂  
黒木 俊政 蛭原 啓文  
第27回宮崎整形外科懇話会, 1993, 12, 宮崎
- 87 当科における過去5年間の悪性軟部腫瘍の治療経験  
塩月 康弘 谷口 博信 桑原 茂 田島 直也  
第27回宮崎整形外科懇話会, 1993, 12, 宮崎
- 88 腰椎疾患における F-wave の臨床的意義について  
関本 朝久 田島 直也 田代 宏一 松元 征徳  
第27回宮崎整形外科懇話会, 1993, 12, 宮崎
- 89 腰部椎間板ヘルニアに膀胱直腸障害を伴った2例  
濱田 浩朗 柳園賜一郎 後藤 啓輔 松岡 知己  
平川 俊一 田島 直也  
第27回宮崎整形外科懇話会, 1993, 12, 宮崎
- 90 歯突起骨折に対する螺子固定術の経験  
野辺 達郎 田島 直也 田代 宏一 松元 征徳  
関本 朝久  
第27回宮崎整形外科懇話会, 1993, 12, 宮崎
- 91 大腿骨遠位骨折に対する Zickel supracondylar system の使用経験  
永井 孝文 川越 正一 山口政一朗  
第27回宮崎整形外科懇話会, 1993, 12, 宮崎
- 92 上腕骨頸部骨折の治療経験  
金井 一男 長鶴 義隆 柏木 輝行 大田 博人  
第27回宮崎整形外科懇話会, 1993, 12, 宮崎

93 骨盤骨折後、早期に DIC を合併した 2 例

坂本 武郎 永田 高見 谷脇 功一 木屋 博昭  
弓削 孝雄 藤本 徹 大江浩一郎  
第27回宮崎整形外科懇話会, 1993, 12, 宮崎

94 Metatropic Dysplasia の一例

黒田 宏 山口 和正 末永 治  
第27回宮崎整形外科懇話会, 1993, 12, 宮崎

95 キーンバック病に対する骨核入り筋膜球置換術の一例

飯干 明 戸田 勝 金井 純次 矢野 浩明  
第27回宮崎整形外科懇話会, 1993, 12, 宮崎

過去の同門会誌に未掲載の分です。(文頭の番号はその年度に継続してつけています。)

## 1990年分

### ◆原 著

#### 33 柔道選手の腰部障害

黒木 俊政 田島 直也 松本 宏一 田代 宏一  
押川絃一郎 広田 彰  
九州スポーツ医・科学会誌 2 巻, P 21-24, 1990

#### 34 シンポジウム「九州一周駅伝」陸上長距離選手の運動生理学的研究(第2報)

田島 直也 黒木 俊政 柳園賜一郎 黒木 龍二  
永井 孝文 広田 彰 \* 押川絃一郎 \* \*  
\* 宮崎大学教育学部 \* \* 押川整形外科医院  
九州スポーツ医・科学会誌 2 巻, P 63-69, 1990

#### 35 女子長距離陸上競技選手の最大酸素摂取量

黒木 俊政 田島 直也 中村真由美 広田 彰  
九州スポーツ医・科学会誌 2 巻, P 135-138, 1990

#### 36 Mast Cells in Fracture Healing an Experimental Study Using Rat Model

谷口 博信  
日本整形外科学会雑誌64巻10号, P 949-957, 1990

#### 37 糖尿病を合併した慢性関節リウマチ患者に対するブシラミン臨床効果の検討

出口 義宏 浅山 滉  
新薬と臨床39巻11号, P 2329-2332, 1990

#### 38 RA 股関節に対する Precision Hip System の短期成績

税所幸一郎 木村 千仞 桑原 茂 田島 直也  
関節の外科17巻4号, P 219-223, 1990

#### 39 骨折治癒過程における肥満細胞の関与について

—骨芽細胞を介した仮骨吸収促進の順序

谷口 博信 桑原 茂 田島 直也  
日本整形外科学会雑誌64巻8号, S 1149, 1990

(1991年分)

◆著 書

4 腰部脊柱管狭窄症

田島 直也

Monthly Book Orthopaedics35 最新整形外科薬物療法マニュアル,  
p 159-164, 1991

5 Monitoring Motor Function of the Spinal Cord:The Descending Segmental Evoked Spinal  
Cord Potential

M.Yokoyama K.Shinomiya H.Sato H.Komori and K.Furuya  
Spinal Cord Monitoring and Electrodiagnosis(Springer-Verlag)  
p 27-35, 1991

6 Prognostication of Surgical Outcome in Cervical Spondylotic Myelopathy Using Evoked Spinal  
Cord Potentials

K.Shinomiya Y.kurosa M.Fuchioka H.Sato  
M.Yokoyama H.komori and K.Furuya  
Spinal Cord Monitoring and Electrodiagnosis(Springer-Verlag)  
p 287-295, 1991

◆原 著

43 寛骨臼球状骨切り術前後の三次元的被覆について

帖佐 悦男 長鶴 義隆 柏木 輝行 松岡 知己  
田島 直也  
整形外科バイオメカニクス, 13:155-158, 1991

44 乳児運動発達検診の考察-ボイタ法について-

出口 義宏 浅山 滉 木原 薫 古沢 一成  
古閑 博明 佐伯 覚  
リハビリテーション医学, 28(2):137-140, 1991

45 頸髄損傷者の筋トーンの研究(第1報)-固痙縮の証明-

出口 義宏 浅山 滉 大多和 聡 古沢 一成  
紫藤 泰二  
日本パラプレジア医学会雑誌, 4(1):274-275, 1991

- 46 運動療法と各種リハビリテーション患者の生体反応について  
出口 義宏  
リハビリテーション医学, 28 (8) : 632-635, 1991
- 47 乳児運動発達検診の効果と問題点  
出口 義宏 浅山 滉 木原 薫 千田 治道  
大多和 聡 佐伯 覚 古閑 博明 水野 秀夫  
整形外科と災害外科, 39 (3) : 1309-1314, 1991
- 48 リハビリ領域疾患に対する TENS 療法の効果  
出口 義宏 浅山 滉 橋本 伸朗 大多和 聡  
宮園 一樹  
整形外科と災害外科, 40 (2) : 774-780, 1991
- 49 バセドウ病に慢性関節リウマチを合併した一症例  
出口 義宏 浅山 滉 木原 薫 紫藤 泰二  
千田 治道 大多和 聡 柳井 荘緑 佐伯 覚  
九州リウマチ, 10 : 66-69, 1991
- 50 学会印象記 第25回日本パラプレジア医学会印象記  
出口 義宏  
総合リハビリテーション, 19 (2) : 161-162, 1991
- 51 他動的関節運動が呼吸機能に及ぼす影響について  
佐伯 覚 緒方 甫 浅山 滉 出口 義宏  
リハビリテーション医学, 28 (2) : 133-136, 1991
- 52 脳卒中片麻痺の肩関節亜脱臼に対する装具について  
浅山 滉 片岡 泰文 出口 義宏 紫藤 泰二  
池田 俊雄 村上 正明  
日本義肢装具学会誌, 7 (4) : 335-340, 1991
- 53 末梢循環障害を併った慢性関節リウマチに対するエイコサペンタエン酸の効果の検討  
古澤 一成 出口 義宏 浅山 滉  
新薬と臨床, 40 (5) 1098-1102, 1991

54 脊髄機能モニタリング法の利用とその問題点

四宮 謙一 横山 正昭 小森 博達 松岡 正  
武藤 直子  
整形・災害外科, 34巻1号P31-37, 1991

◆学会報告

1 当院に於ける慢性関節リウマチ患者の小検討

平部 久彬  
第3回宮崎県リウマチ研究会, 1991, 5, 宮崎

(1992年分)

◆原著

36 高度大腿骨頭沁り症の治療経験

松元 征徳 長鶴 義隆 帖佐 悦男 柏木 輝行  
田島 直也  
整形外科と災害外科, 41(2):636-640, 1992

37 末期股関節症と腰痛について

柏木 輝行 長鶴 義隆 帖佐 悦男 田島 直也  
Hip Joint. 18:17-19, 1992

38 脛骨に高度な骨欠損を有する症例に骨移植を併用した Whiteside 人工膝関節置換術について

大平 卓 越智 龍弥 鳥取部光司  
関節外科. 11(10):83-87, 1992

39 癌性疼痛に対する無水アルコールによる腰部神経根ブロックの経験

黒木 俊政 田島 直也 伊勢 紘平 押川紘一郎  
日本脊椎外科学会雑誌. 3(1):244, 1992

40 持久性トレーニングにおける Creatine Kinase(CK)の動態変化

黒木 俊政 田島 直也 伊勢 紘平  
日本整形外科学会雑誌. 66(8)S1502, 1992

41 慢性関節リウマチ

桑原 茂

Medicament News . 1379号 9月15日, 1992

42 慢性関節リウマチに対するブシラミン6ヶ月以上投与症例の検討

武内 晴明 友田 邦彦 赤崎 幸二 伊勢 紘平

東野 通志

九州リウマチ. 11巻: 44-48, 1992

43 三次元有限要素法による腰椎の応力解析 (第一報: 関節突起間部)

鳥取部光司 田島 直也 平川 俊一 帖佐 悦男

日本臨床バイオメカニクス学会, 14巻: P257-259, 1992

◆学会報告

1 ブシラミンの隔日投与を行った慢性関節リウマチの1例

平部 久彬

第5回宮崎県リウマチ研究会, 1992, 3, 宮崎

## 編 集 後 記

平成6年度、同門会会誌第6号をお届けいたします。

今年は教室開講20周年にあたりますが、記念誌は既に平成6年7月に発行されていますので、通常の会誌として編集しました。

会員の先生方にはご多忙中のところ、記念誌に続けての原稿依頼となりました。内心案じていたのですが、今回も多数の原稿が寄せられ、うれしい予想はずれとなりました。貴重なお時間を割いて寄稿いただきました35名の会員の先生方には、紙面を借りましてお礼申しあげます。

さて、寄せられました原稿につきしては教室関連の記事はもとより、関連病院の充実化を反映してか、今までもまして県内外より多くの様々なお便りが寄せられています。さらに、興味深い、示唆に富んだ含蓄ある随筆、そして趣味・旅行・健康・スポーツ・学会・留学に関連した会員の近況報告など、内容的にもいろいろと多彩なものとなりました。また残念ながら平成6年6月12日にご逝去されました、故出口義宏先生の追悼の記事も掲載されています。会員の様々な消息や活躍ぶりを是非御覧くださいと思いつつ編集に当たった次第です。

最後になりましたが、いつもながら本誌作成にご尽力頂いています幹事桑原茂先生ならびに4名の教室秘書嬢に感謝申しあげます。

(文責：岡田光司)



宮崎医大整形外科学教室

## 同 門 会 誌

発行日 平成6年11月30日  
発行者 宮崎医科大学整形外科学教室同門会  
編集責任者 桑原 茂  
印刷者 (資) 愛文社印刷所